

福祉活動に関する住民アンケート調査概要

◇対象：町内在住の成人1,000人（無作為抽出）
福祉活動員79人（上記と重複7名）

合計1,072人

◇調査期間：令和2年10月1日（木）～10月14日（水）

◇調査方法：【調査票の配布】福祉活動員経由
【調査票の回収】郵送（ポスト投函）

◇調査内容：

☒問 1～ 5 / ご自身について

☒問 5～13 / 地区内の近所づきあいや地区の状況について

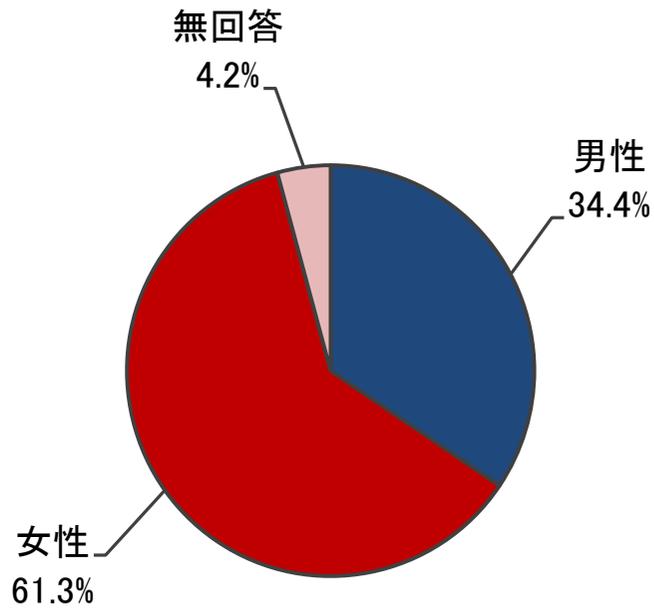
☒問14～22 / ご自身やご家族の困りごとや福祉活動の進め方について

☒問23～30 / 早島町全体の福祉や社会福祉協議会、「ほっとプラン」について



◇回答率：**41.9%**（回答数450票 / 配布数1,072票）

回答者の性別

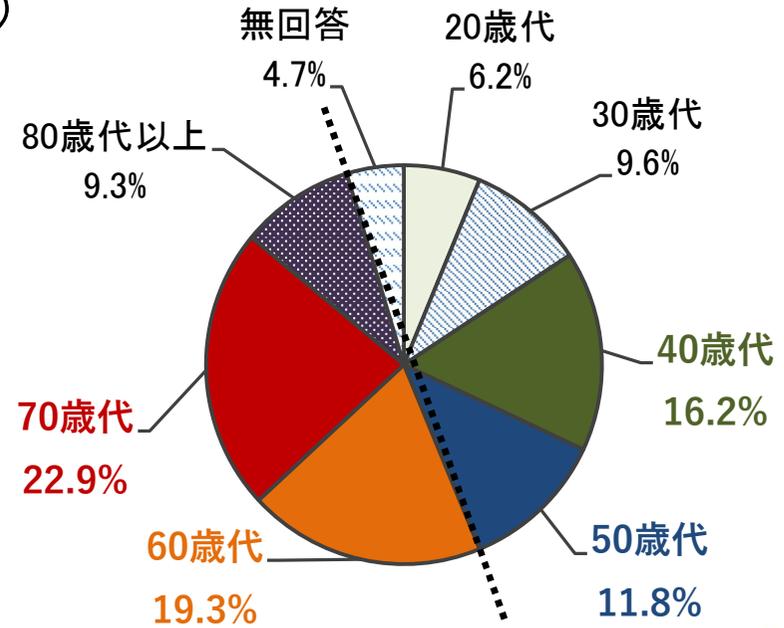


回答者の6割が女性



回答者の年代

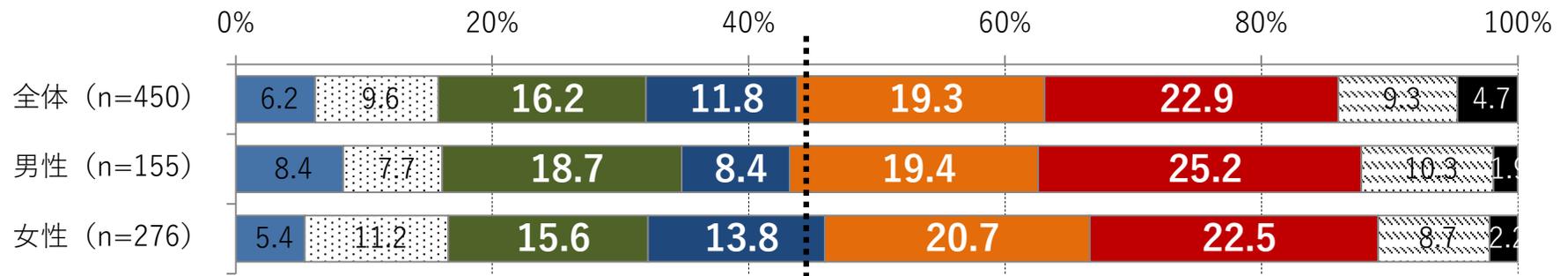
(N=450)



60歳未満と以上で回答者が約半数ずつ



■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳代以上 ■ 無回答



☒問 1～4

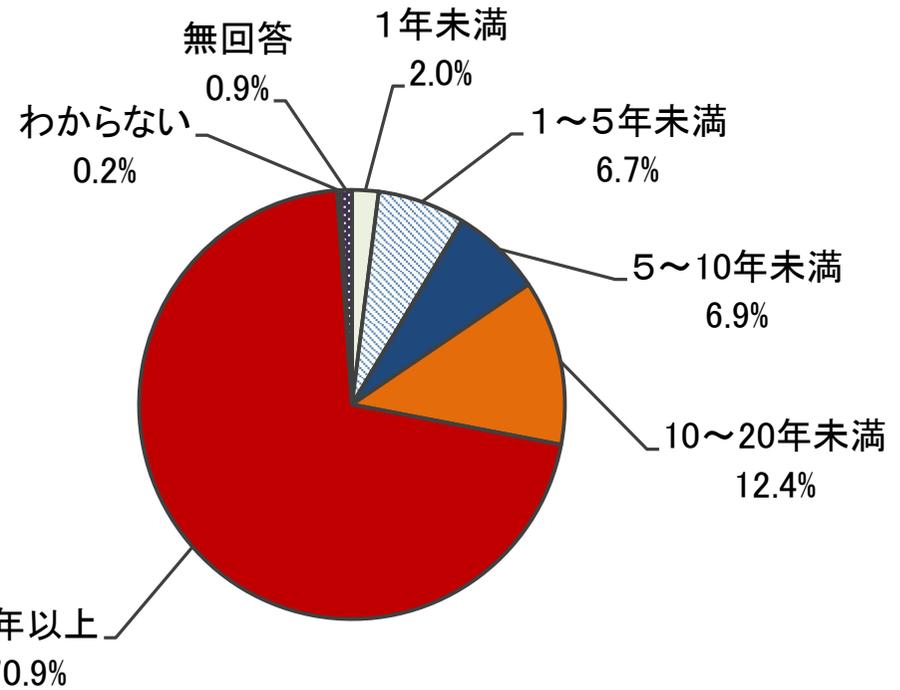
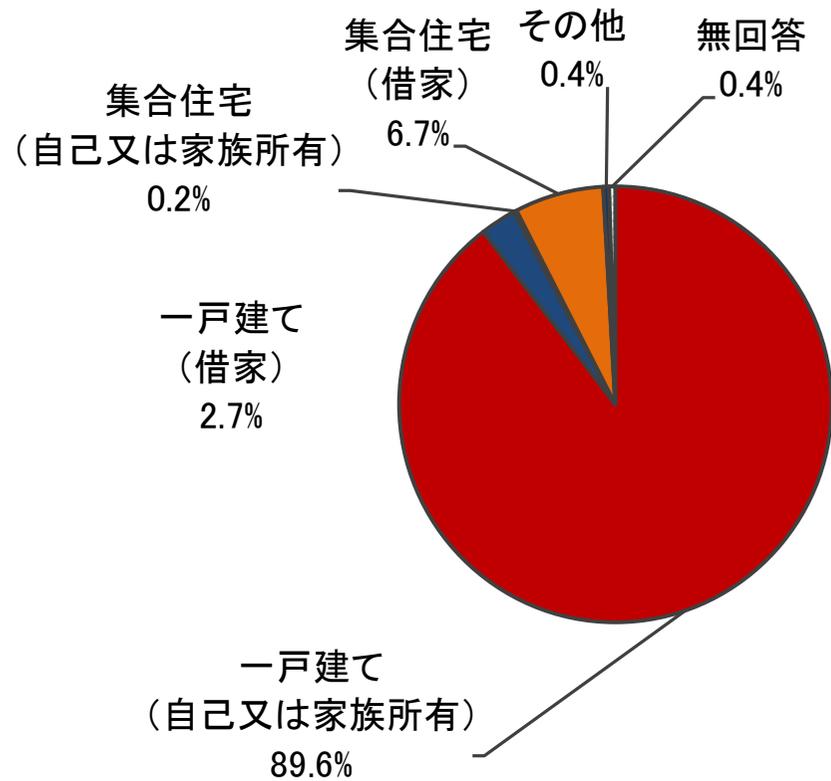
ご記入者ご自身について

- ☒ 回答者の属性を把握し、各設問分析するための基礎数値とする。

問1. 回答者の住居形態

問2. 回答者の居住年数

(N=450)



⇒ 回答者の **約9割が所有**、**約1割が借家**

check

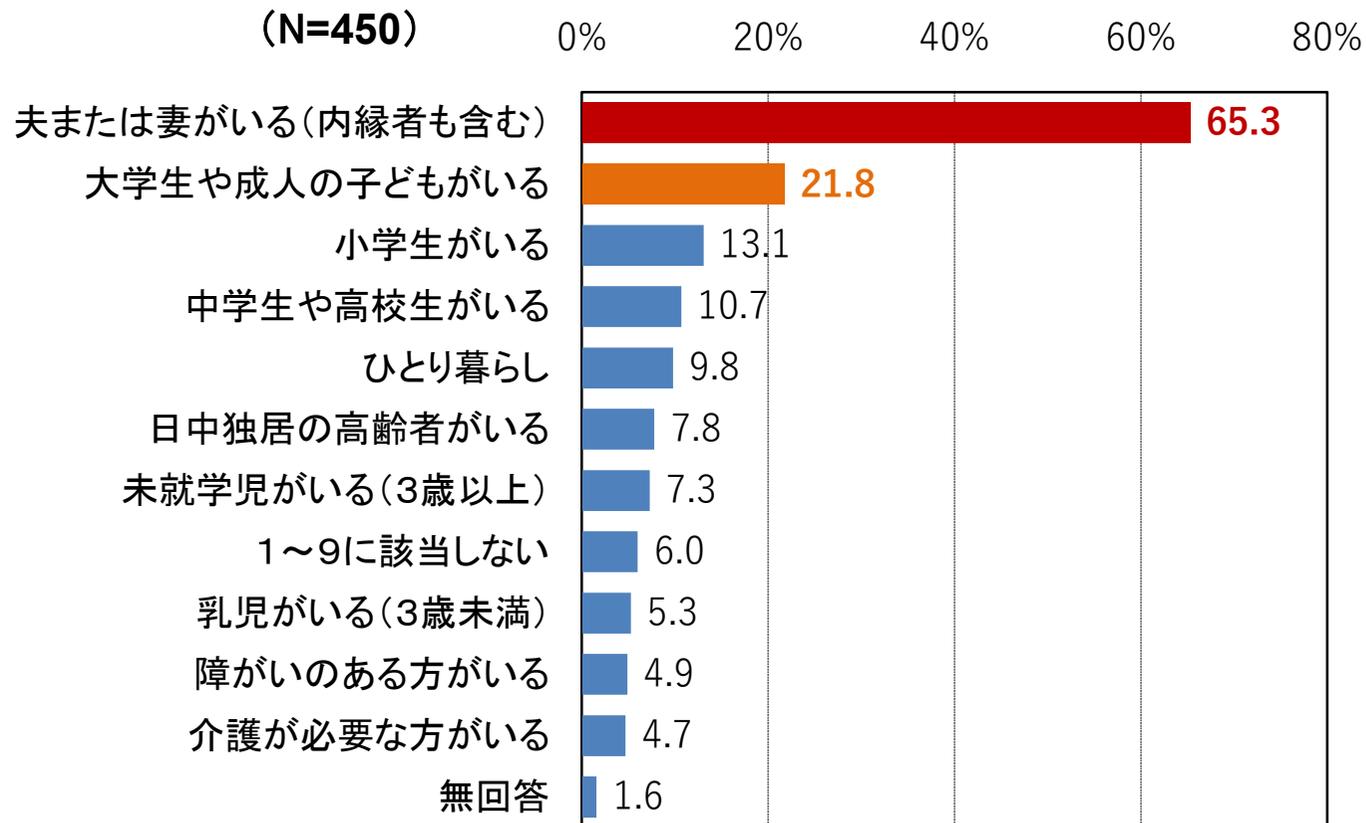


⇒ 回答者の **約7割が20年以上町内に居住**

check



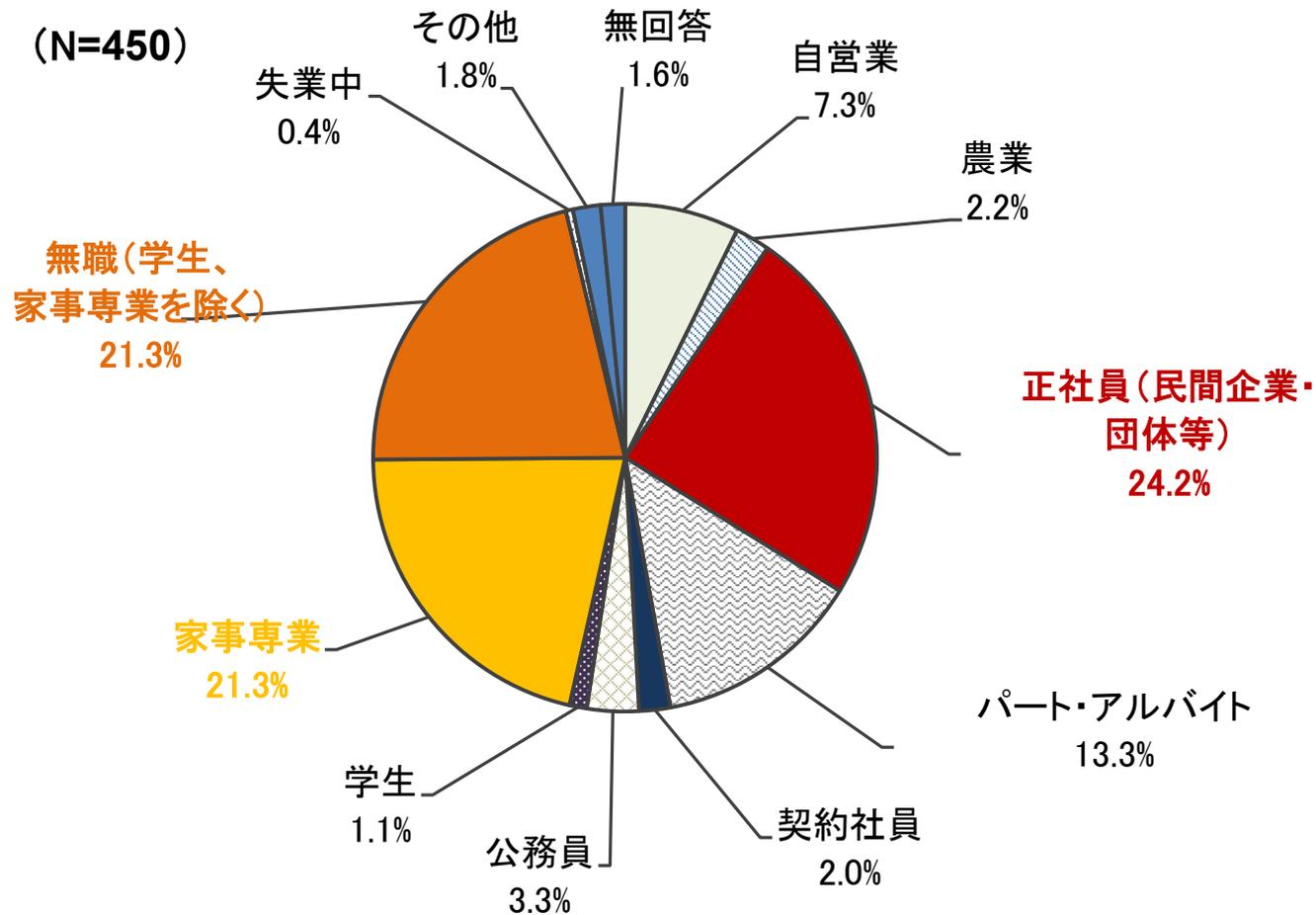
問3 あなたと一緒に暮らしているご家族を教えてください。〈該当する項目すべてに○〉



○一緒に暮らしているご家族についてたずねたところ、「夫または妻がいる(内縁者も含む)」と回答した人の割合が最も高く65.3%。次いで、「大学生や成人の子どもがいる」(21.8%)、「小学生がいる」(13.1%)と続いている。



問4 あなたの主な職業を教えてください。〈1つに〇〉



〇 主な職業を教えてくださいとたずねたところ、**「正社員(民間企業・団体等)」と回答した人の割合が最も高く24.2%**となっている。次いで、**「家事専業」、「無職(学生、家事専業を除く)」(共に21.3%)**、「パート・アルバイト」(13.3%)と続いている。



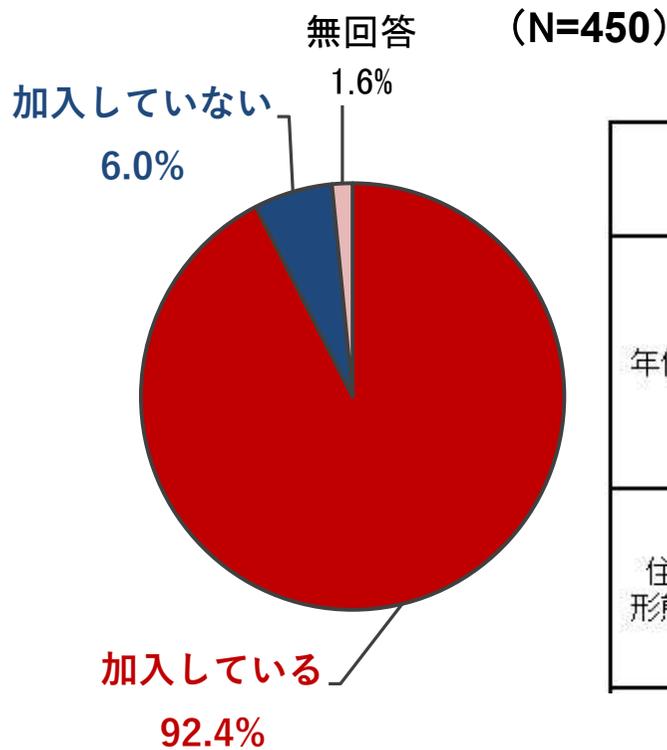
☒問 5 ～ 13

地区内の近所づきあいや 地区の状況について

- ☒地区内のつきあいや個人情報に関する意識、行事参加状況等から、地区の助け合いの進め方を検証する。

問5 あなたやご家族は、自治会（町内会）へ加入されていますか。

〈該当する項目すべてに○〉

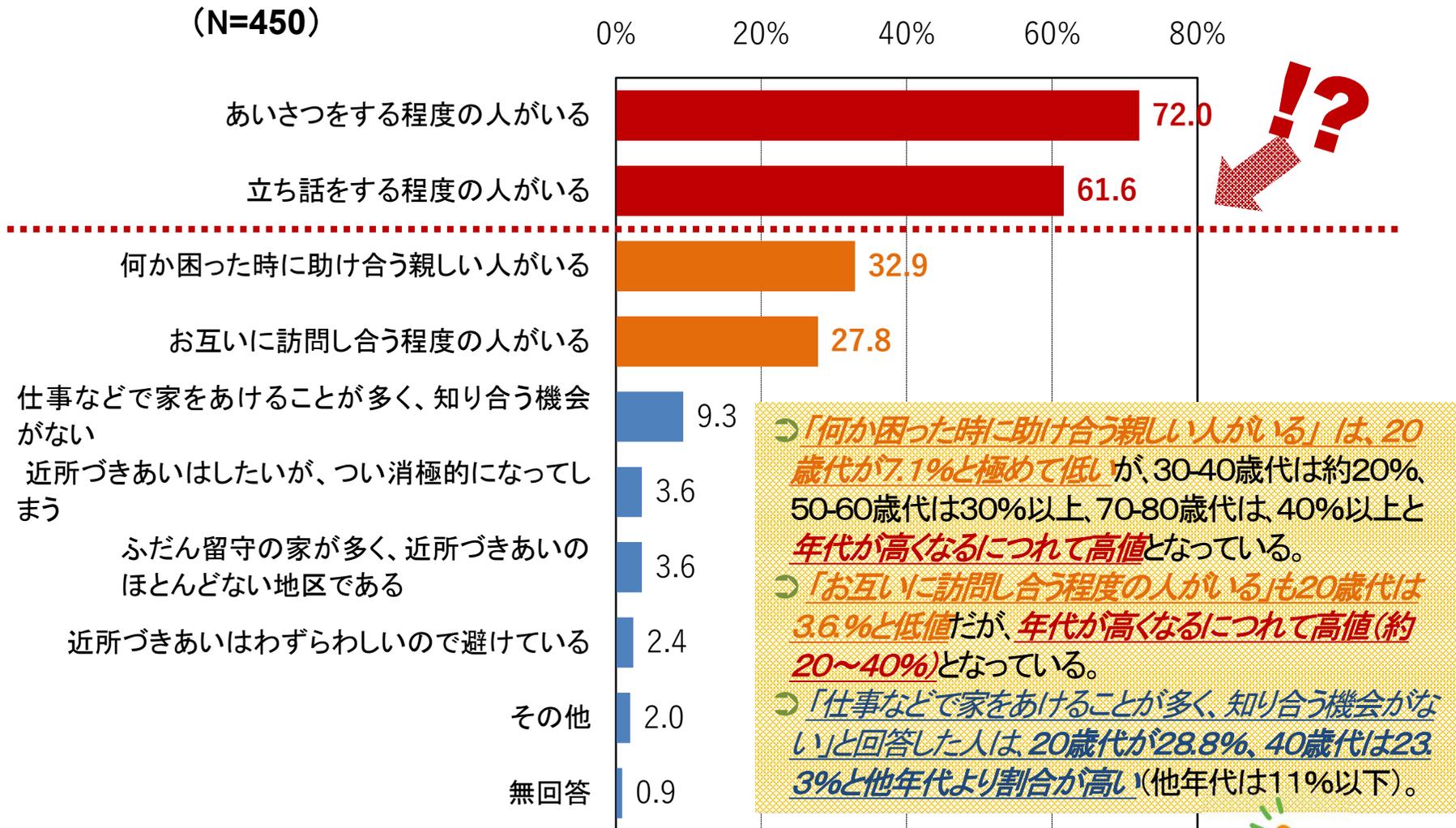


		加入	未加入	無回答	合計
年代別	20歳代(n=28)	78.6	17.9	3.6	28
	30歳代(n=43)	81.4	11.6	7.0	43
	40歳代(n=73)	89.0	9.6	1.4	73
	50歳代(n=53)	98.1	1.9	-	53
	60歳代(n=87)	98.9	1.1	-	87
	70歳代(n=103)	95.1	4.9	-	103
	80歳代以上(n=42)	97.6	2.4	-	42
	住居形態別	一戸建て（自己又は家族所有）(n=403)	96.3	2.2	1.5
一戸建て（自己又は家族所有）以外(n=45)		60.0	40.0	-	45

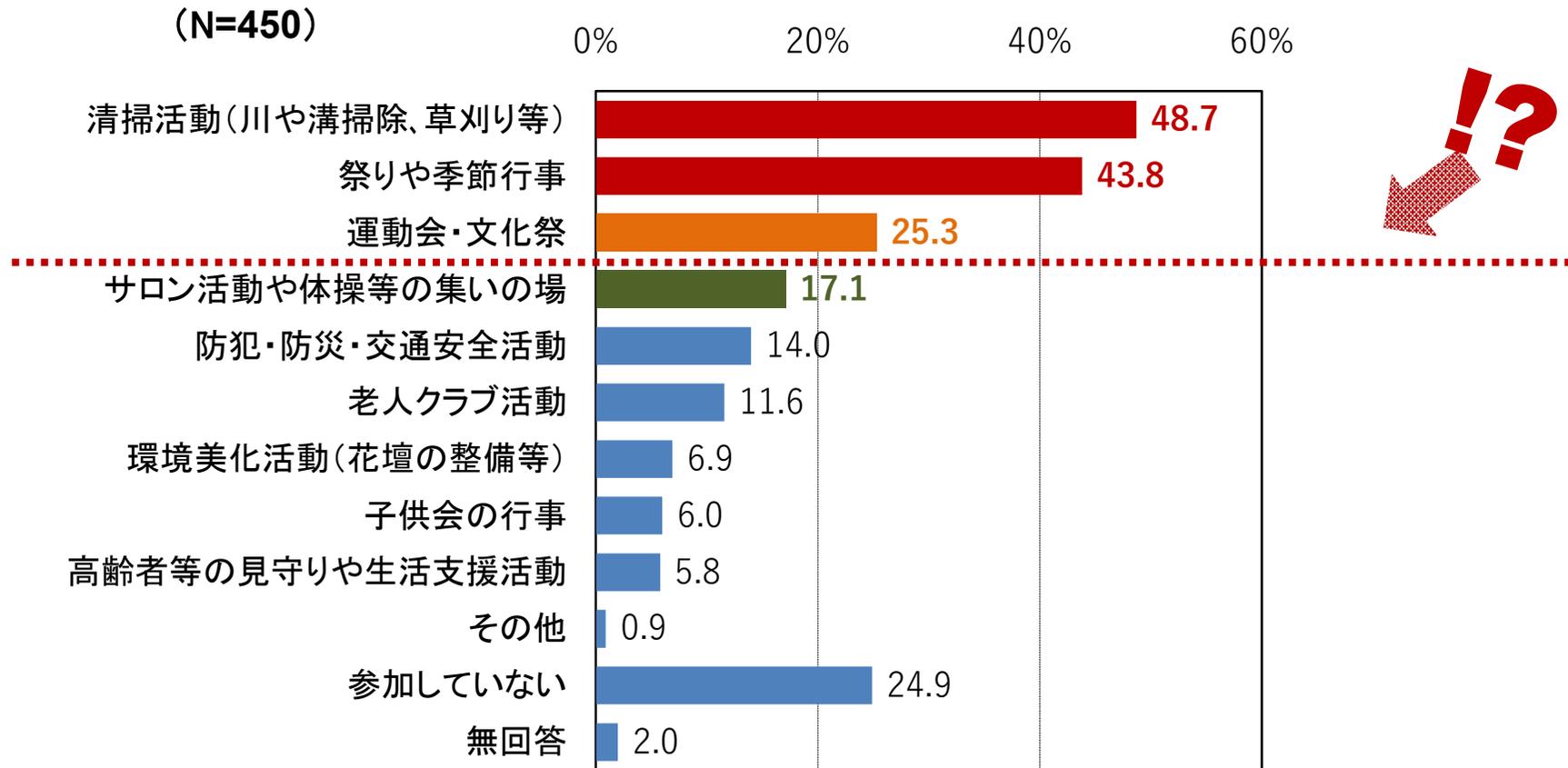
- 自治会加入者が9割以上だが、回答者の6%は自治会に加入していない。
- 年代別にみると、50歳代以上では加入率が概ね10割に近くなっており、年代が低くなるにつれて加入率は低くなっている。
- 住居形態別にみると、「一戸建て（自己又は家族所有）」以外の回答者の4割が自治会に加入していない。



問6 あなたは普段ご近所の方（家族・親族を除く）と、どの程度の「つきあい」をしていますか。〈該当する項目すべてに○〉



問7 あなたは、地区の活動や行事に参加していますか。〈該当する項目すべてに○〉

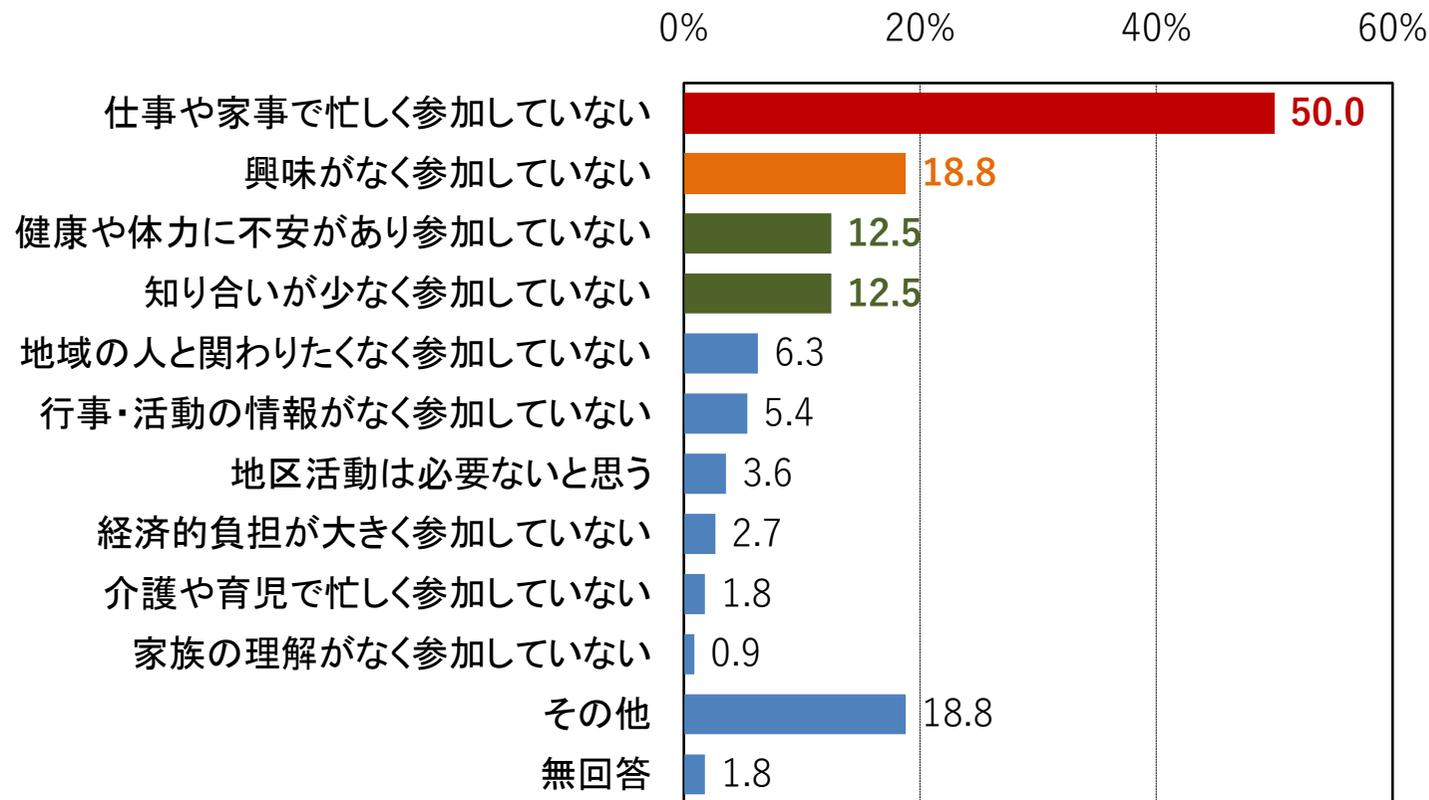


- 20歳代の約9割が「参加していない」と回答している。60歳代の「祭りや季節行事」と回答した人の割合が高くなっている。
- 「サロン活動や体操等の集いの場」と回答した人の女性の割合(23.2%)が男性の約4倍となっている。
- 「防犯・防災・交通安全活動」と回答した割合は男性の方が女性の2倍となっている。



【問7で「1 1. 参加していない」を選択した方に伺います】
問8 あなたが、地区の活動や行事に参加していない理由を教えてください。
 <該当する項目すべてに○>

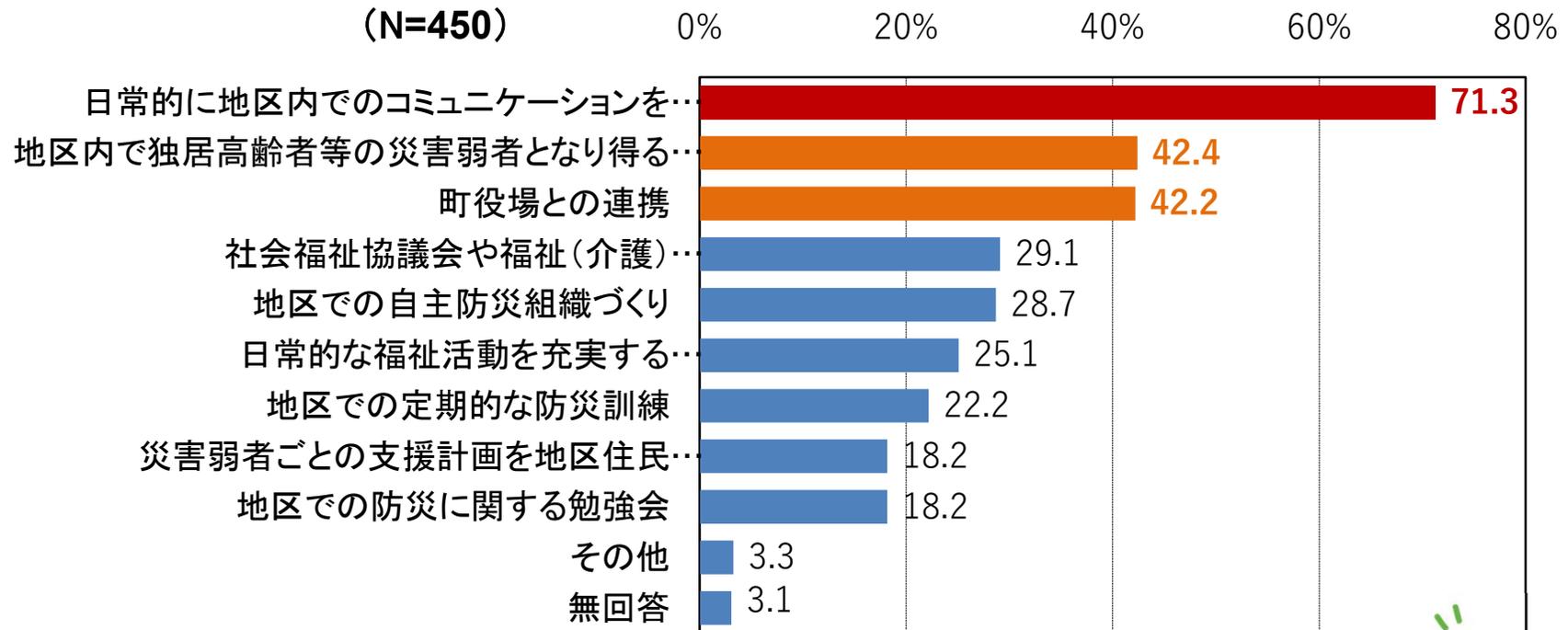
(N=112)



- 「仕事や家事で忙しく参加していない」と回答した人の割合が最も高い(50.0%)。
- 次いで、「興味がなく参加していない」(18.8%)、「健康や体力に不安があり参加していない」「知り合いが少なく参加していない」(共に12.5%)と続いている。



問9 豪雨や地震等の災害時に地区住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。〈該当する項目すべてに○〉



- 性別にみると、「地区での自主防災組織づくり」と回答した男性の割合が、「地区内で独居高齢者等の災害弱者となり得る世帯を共有する」と回答した女性の割合が、異性に比べて10%以上高くなっている。
- 年代別にみると、20歳代の「災害弱者ごとの支援計画を地区住民みんなで考える場をつくる」「地区での定期的な防災訓練」と回答した人の割合が、他の年代に比べ低くなっている。
- 「町役場との連携」は、30歳代から60歳代は40%代後半だが、80歳代以上のみ「社会福祉協議会や福祉(介護)サービス事業者との連携」が40%代で「町役場との連携」を上回っている。

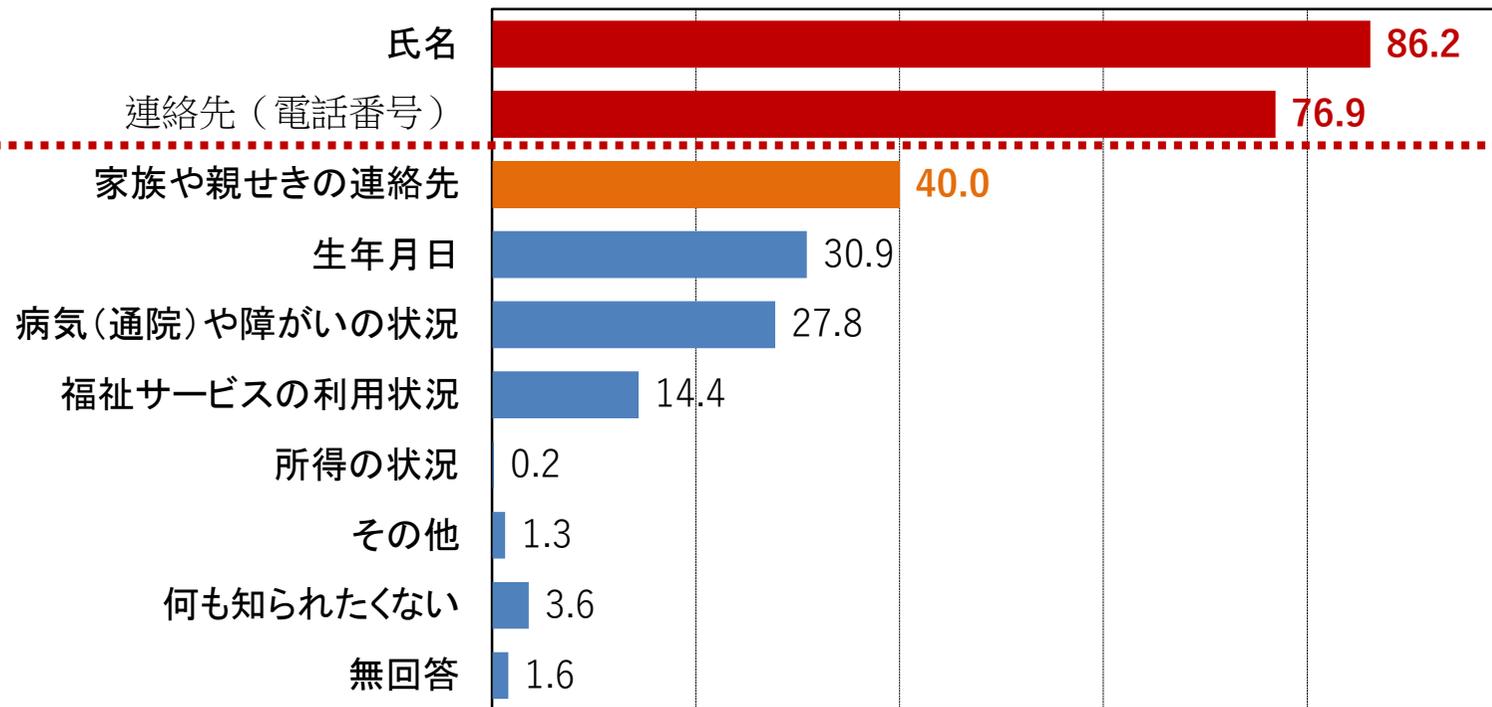


問10 あなたが、災害時等の緊急時などに近所の手助けが必要となる場合に備えて、どのような情報であれば、地域の人に知らせてもよいとお考えですか。

〈該当する項目すべてに○〉

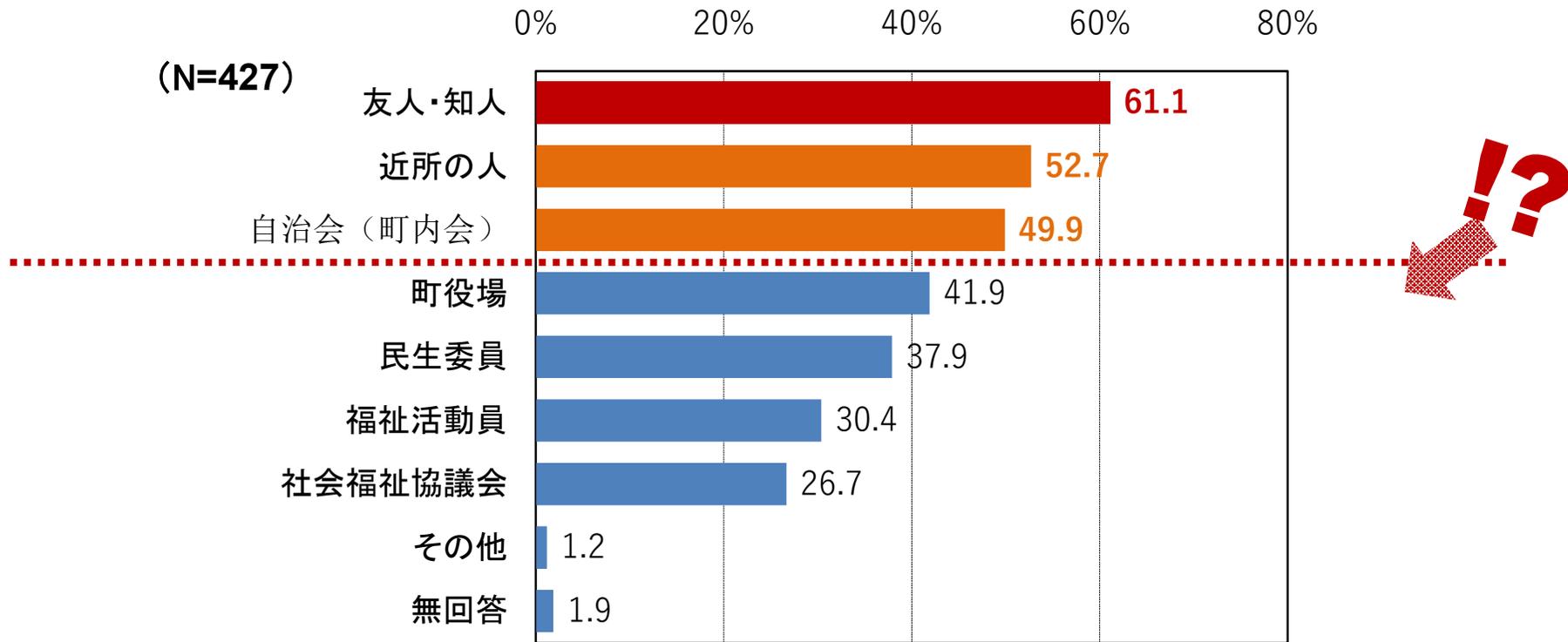
(N=450)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 20歳代の「何も知られたくない」の割合(10.7%)が、他の年代の割合(5%)未満に比べ高くなっている。
- 「家族や親せきの連絡先」は40歳代以上では4割以上、特に80歳代は6割が知らせてよいと回答している。

【問10で「1」から「8」までのいずれかを選択した方に伺います】
問11 あなたは、知らせてもよいと回答した情報を、どの範囲までなら知らせてもよいと考えますか。〈該当する項目すべてに○〉

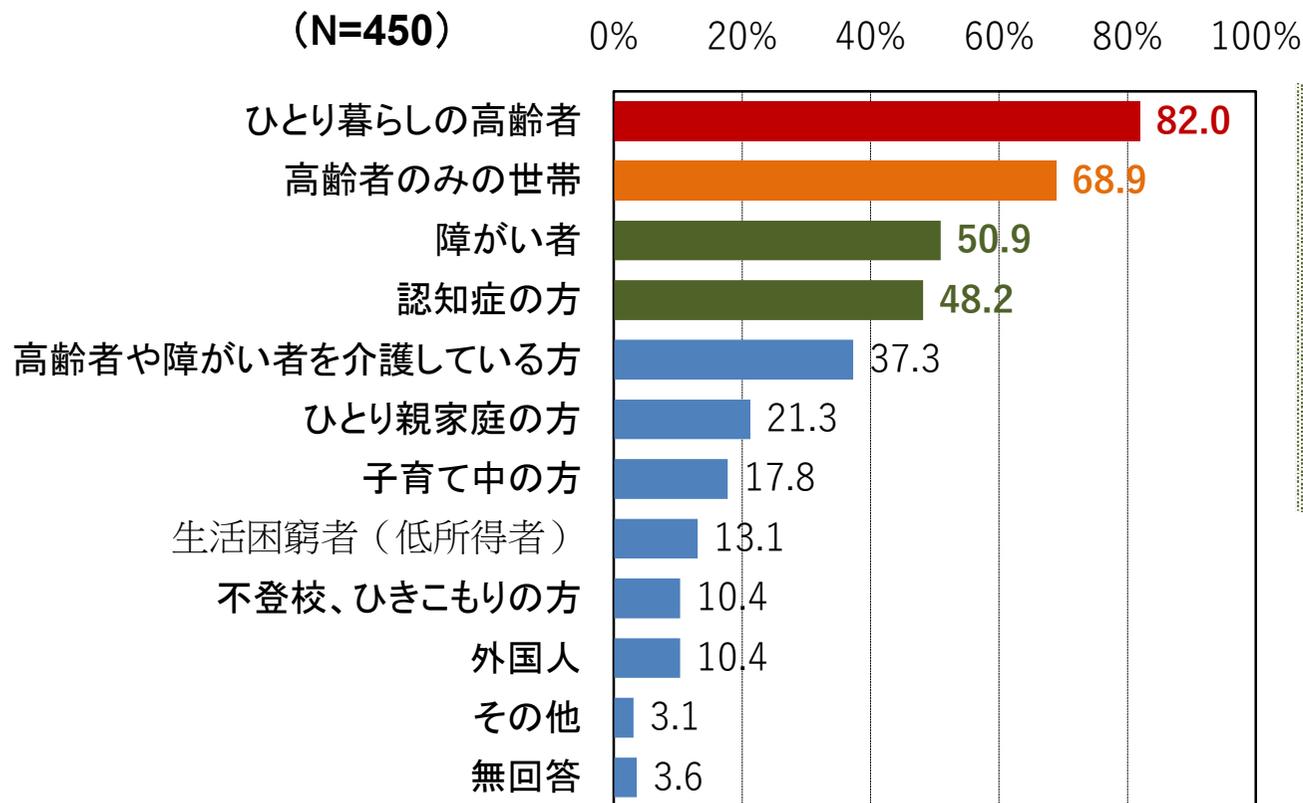


- 「友人・知人」と回答した人の割合が最も高く61.1%、次いで「近所の人」(52.7%)、「自治会(町内会)」(49.9%)と高く、地縁への抵抗感がそれほど大きくはない。
- 年代別にみると、20歳代は「近所の人」「自治会(町内会)」「民生委員」「福祉活動員」と回答した人の割合が、他の年代より低く、地縁への抵抗感を少なからず感じさせる。
- 80歳代以上のみ、他の年代に比べ、地縁関係がある「近所の人」及び「民生委員」の割合(58.5%)が著しく高い。また、年代の中で唯一、「町役場」の割合(39.0%)より、「社会福祉協議会(48.8%)」及び「福祉活動員(41.5%)」の割合が高い。



問12 あなたがお住まいの地区の中で、特に支援が必要と思われる方はどんな方々ですか。

〈該当する項目すべてに○〉



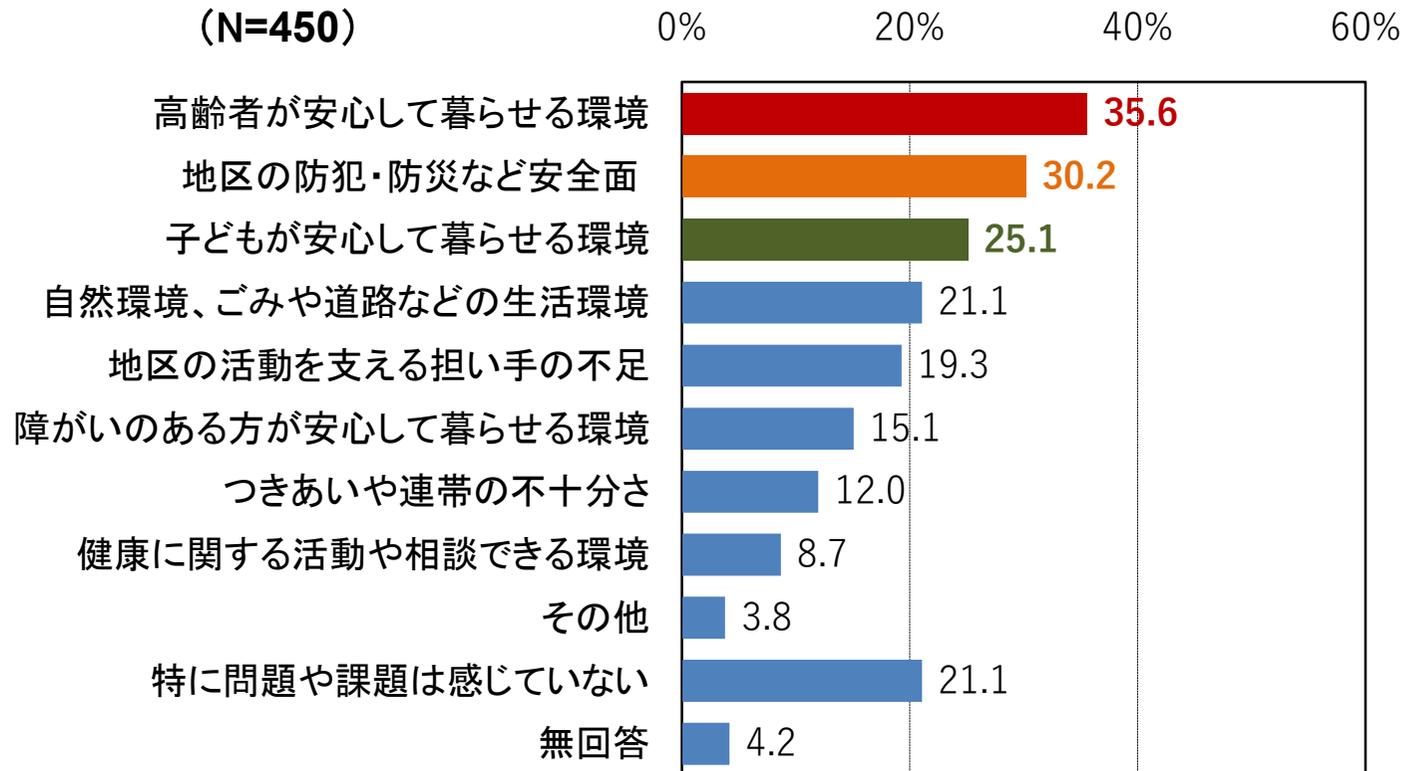
○上位4つの選択肢以外では、「高齢者や障がい者を介護している方」が、30歳代から50歳代、80歳代以上で4割を超えている。また、「生活困窮者(低所得者)」が50歳代と80歳以上で、「外国人」が30歳代と50歳代で、それぞれ2割前後の割合となっている。

○ 福祉関係者へのヒアリング調査の結果と比較すると、福祉活動者での上位は①「ひとり暮らしの高齢者(82.0%)」、②「高齢者のみ世帯(58.3%)」、③「高齢者や障がい者を介護している方(43.8%)」、④「認知症の方(27.1%)」と、本アンケート調査と類似の傾向であった。



問13 あなたがお住まいの地区に問題や課題があるとすれば、どんなことですか。

〈該当する項目すべてに○〉



年代別にみると、最も回答した割合が高い項目は、20歳代「自然環境、ごみや道路などの生活環境」、30歳代「高齢者が安心して暮らせる環境」「子どもが安心して暮らせる環境」、40歳代「地区の防犯・防災など安全面」、50歳代「地区の防犯・防災など安全面」「高齢者が安心して暮らせる環境」、60歳代、70歳代、80歳代「高齢者が安心して暮らせる環境」となっており、50歳代より高い年代では同一の項目が最も高くなっているが、40歳代より下の年代では年代ごとに認識している問題や課題に違いが見られる。

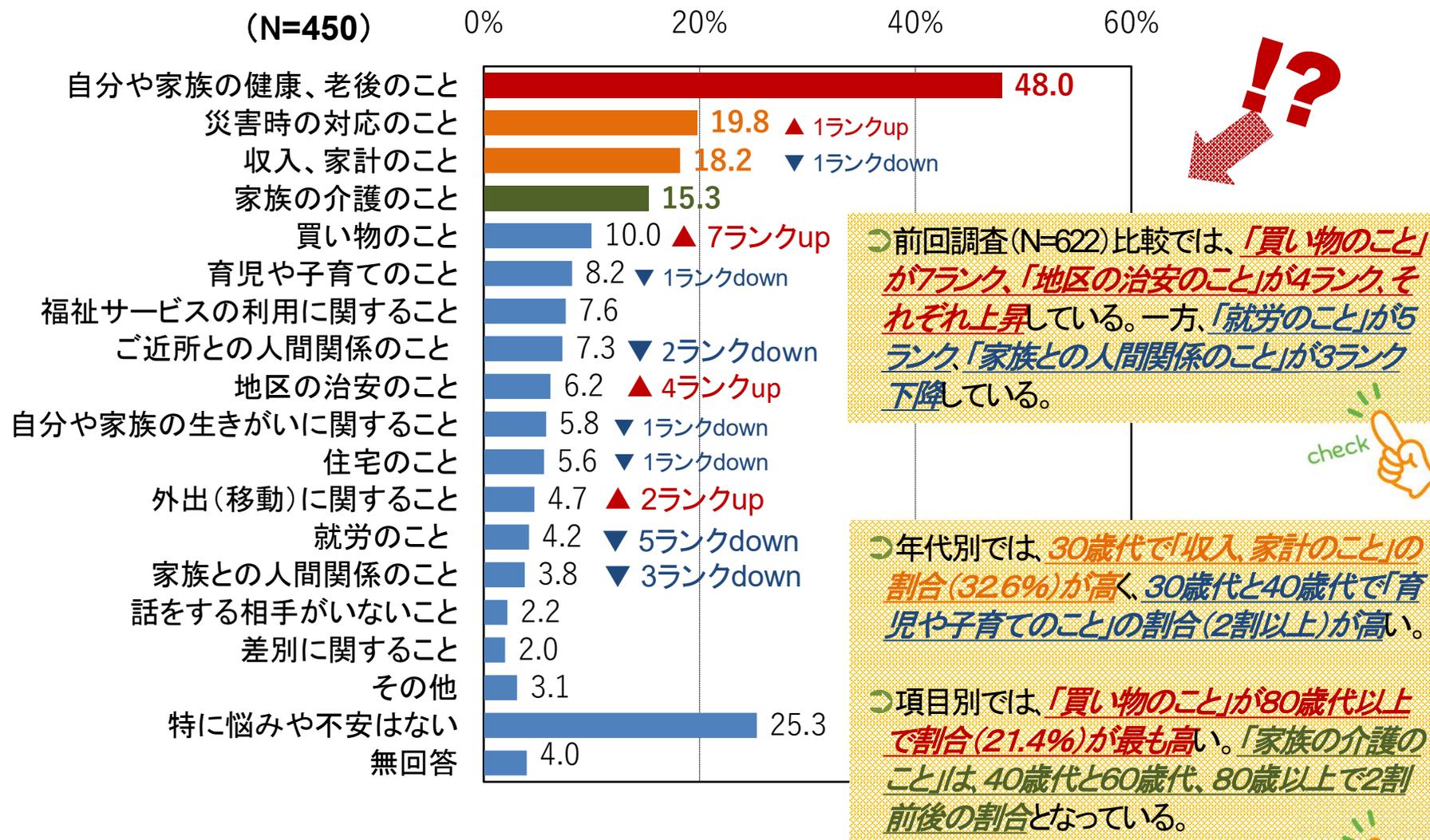


☒問 14～22

ご自身やご家族の困りごとや 福祉活動の進め方について

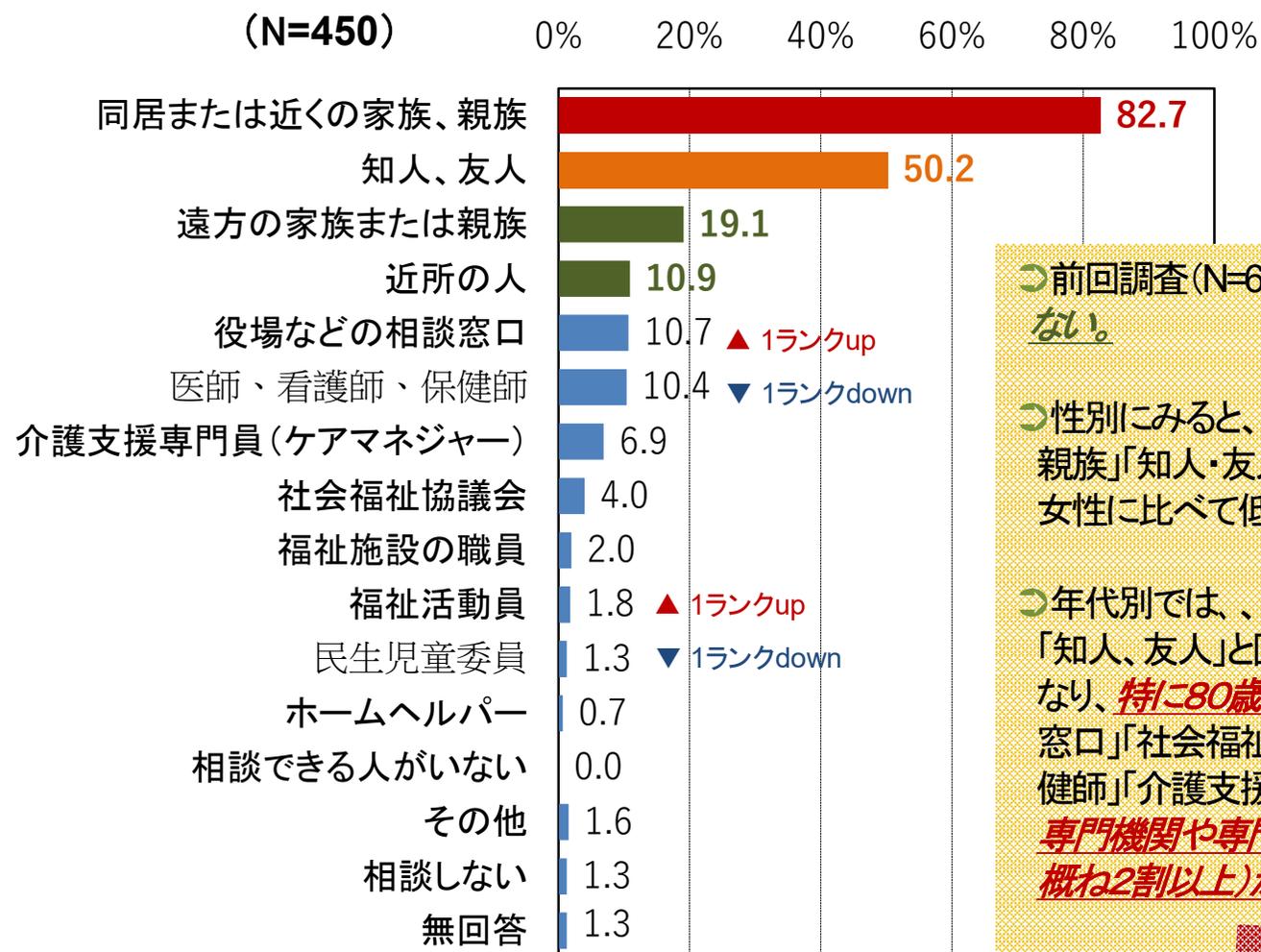
- ☛福祉活動の前提となるニーズや活動要件、手段に関する認識を把握し、活動の進め方を検証する。

問14 あなたやあなたのご家族は、日々の生活でどのような悩みや不安、困りごとを感じる
 ことがありますか。〈該当する項目すべてに○〉 ※「up」「down」は前回調査比



問15 あなたは困った時に誰に相談していますか。〈該当する項目すべてに○〉

※「up」「down」は前回調査比



○前回調査(N=622)比較では、大きな変動はない。

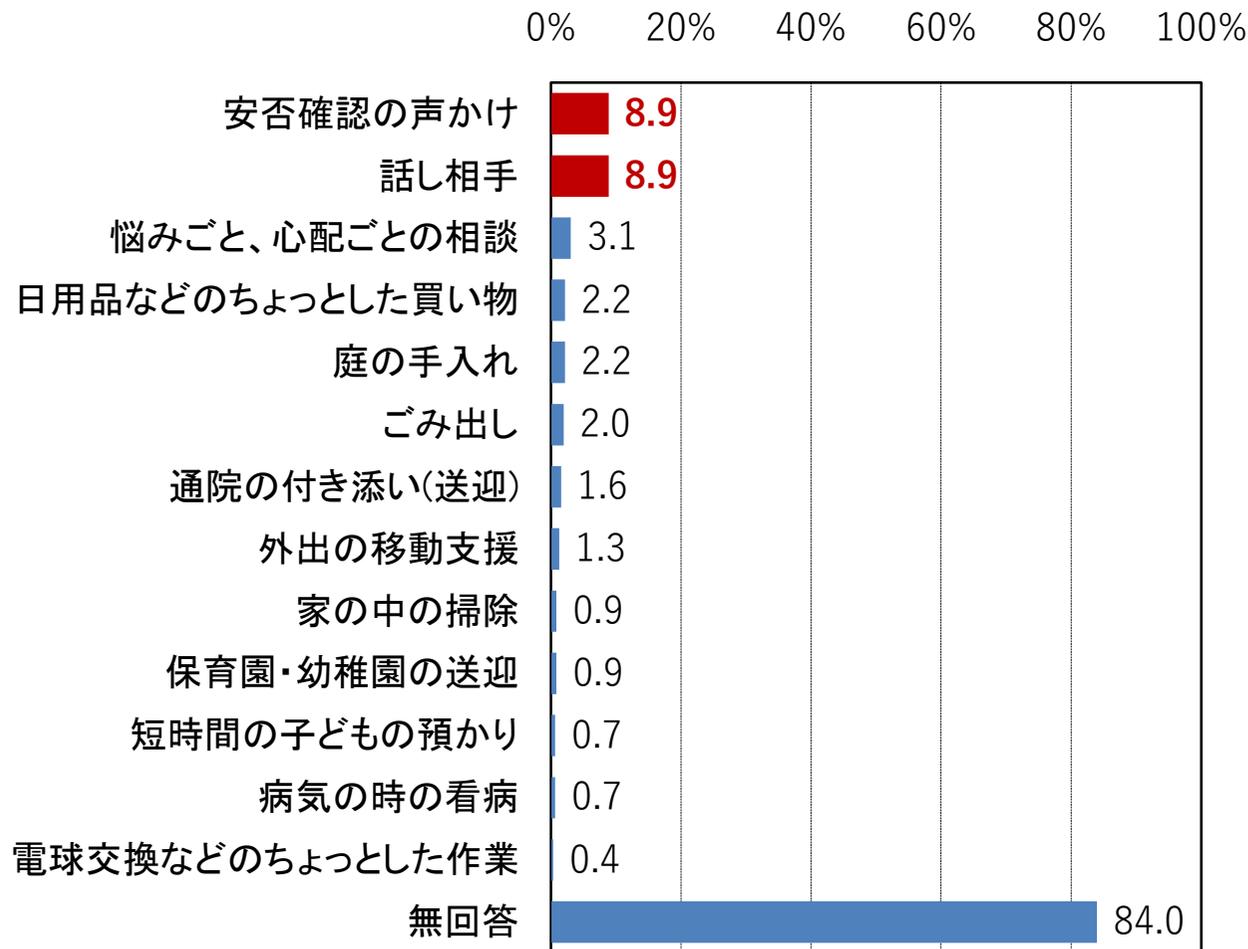
○性別にみると、男性の「遠方の家族または親族」「知人・友人」と回答した人の割合は、女性に比べて低くなっています。

○年代別では、年代が高くなるにつれて、「知人、友人」と回答した人の割合は概ね低くなり、特に80歳代以上では、「役場などの相談窓口」「社会福祉協議会」「医師、看護師、保健師」「介護支援専門員(ケアマネジャー)」と、専門機関や専門職を頼る回答した人の割合(概ね2割以上)が他年代より高くなっている。



問16① あなたは、地区に困っている世帯がある場合、現在、既に手助けしていることはありますか。 <該当する項目すべてに○>

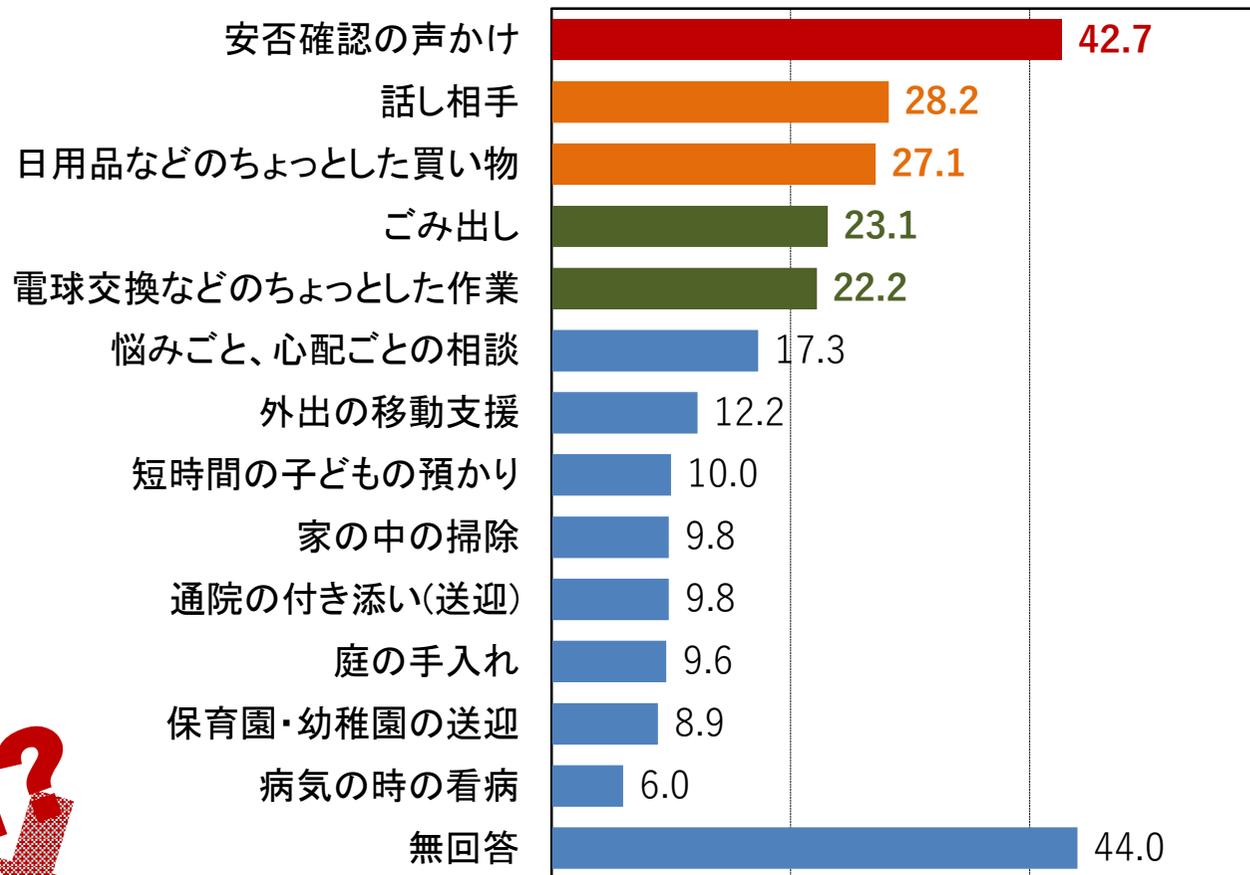
(N=450)



◎現在、既に手助けをしている内容は、「安否確認の声かけ」と「話し相手」で、共に8.9%となっている。
 ◎年代別でみると、70歳代で「安否確認の声かけ」と「話し相手」と回答した割合(共に18.4%)が、他の世代の割合より高い。また、前期高齢者の40.4%が「安否確認の声かけ」をしていると回答。

問16② あなたは、地区に困っている世帯がある場合、今後、手助けできると思うことはありますか。 <該当する項目すべてに○>

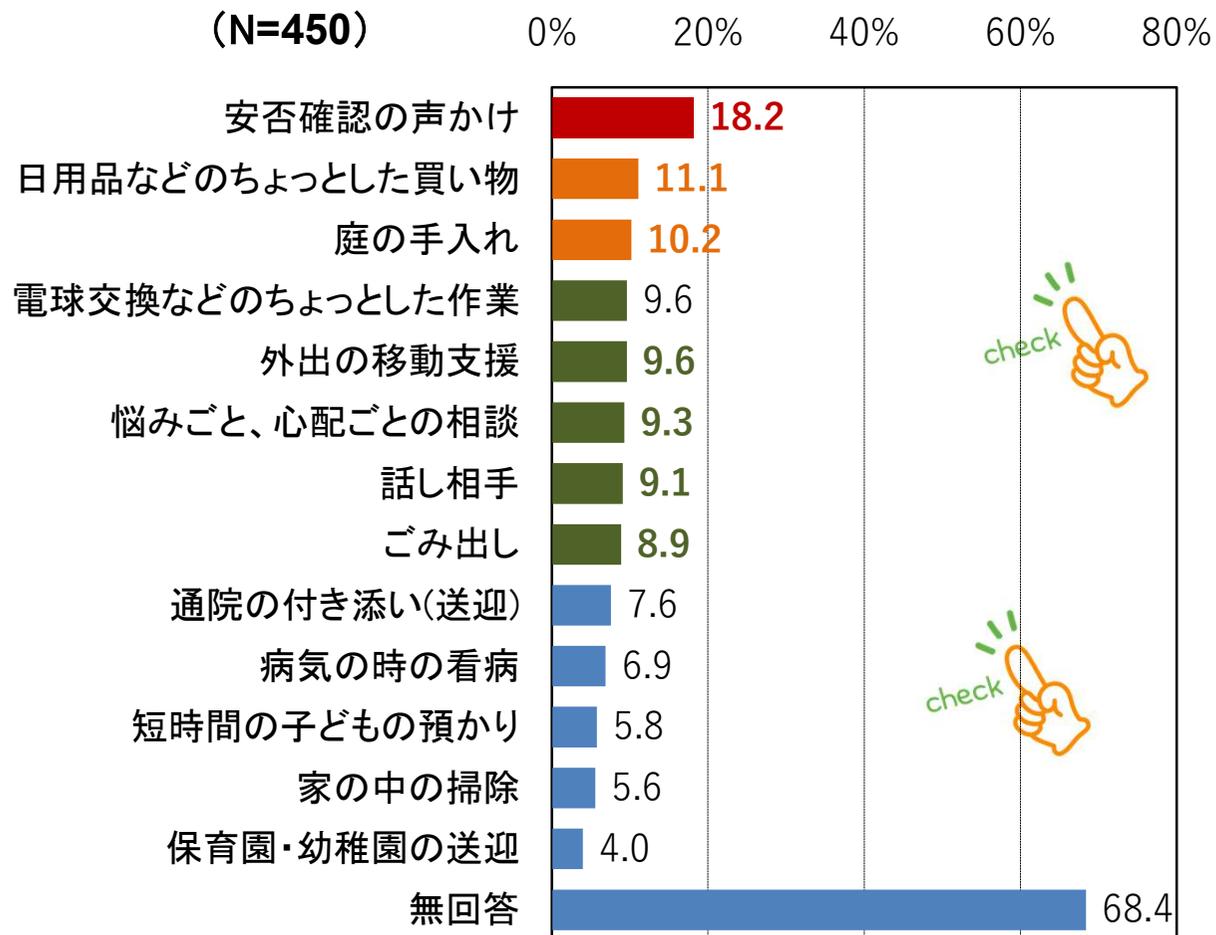
(N=450) 0% 20% 40% 60%



- 性別にみると、男性の「電球交換などのちょっとした作業」、女性の「話し相手」と回答した人の割合が高くなっている。
- 年代別にみると、「話し相手」が30歳代・50歳代・60歳代、「日用品などのちょっとした買い物」が20歳代から50歳代、「電球交換などのちょっとした作業」が40歳代・50歳代、「ごみ出し」が30歳代と50歳代で、それぞれ3割以上が手助けできると回答している。



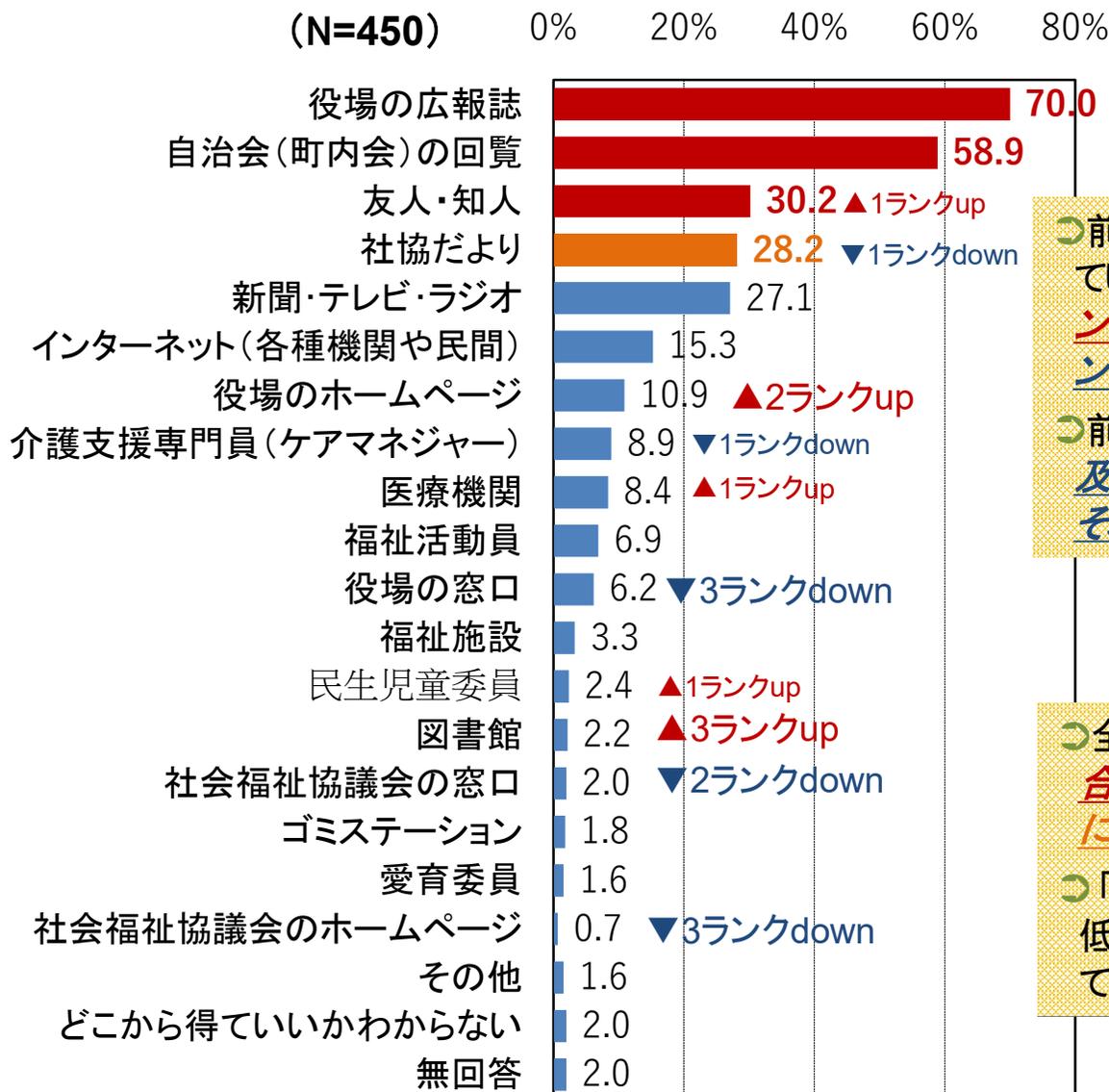
問16③ 現在もしくは将来的にあなた自身が地域の人に手助けしてほしいと思うことはありますか。 <該当する項目すべてに○>



問17 あなたやあなたのご家族は、福祉に関する情報をどのように収集していますか。

〈該当する項目すべてに○〉

※「up」「down」は前回調査比



○前回調査比較で、「図書館」が3ランク上昇している。また、「町役場のホームページ」が2ランク上昇している一方、「町役場の窓口」は3ランク下降している。

○前回調査比較で、「社会福祉協議会の窓口」及び「社会福祉協議会のホームページ」はそれぞれランクが下降している。



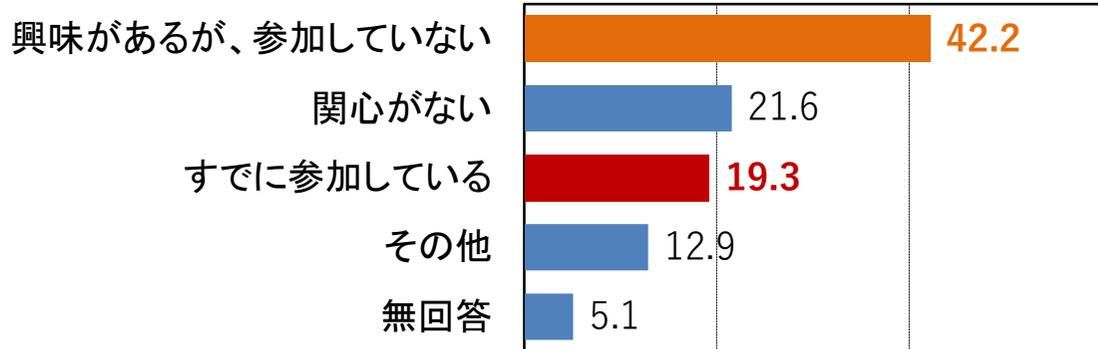
○全ての年代で、「役場の広報誌」と回答した割合が最も高く、「社協だより」は年代が高くなるにつれ回答した割合が概ね高くなっている。

○「インターネット(各種機関や民間)」は年代が低くなるにつれて回答した割合が概ね高くなっている。



問18 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。 <該当する項目すべてに○>

(N=450) 0% 20% 40% 60%



- 20歳代の約6割が「関心がない」を選択。
- 30歳代から50歳代の約5割が「興味があるが参加していない」を選択。
- 前期高齢者の約5割が「興味があるが参加していない」を選択。

- 社会福祉協議会について業務内容を知っている人の、「すでに参加している」と回答した割合が高くなっている。
- 社会福祉協議会についてまったく知らない人の、「関心がない」と回答した割合が高くなっている。

問18 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。 <該当する項目すべてに○>

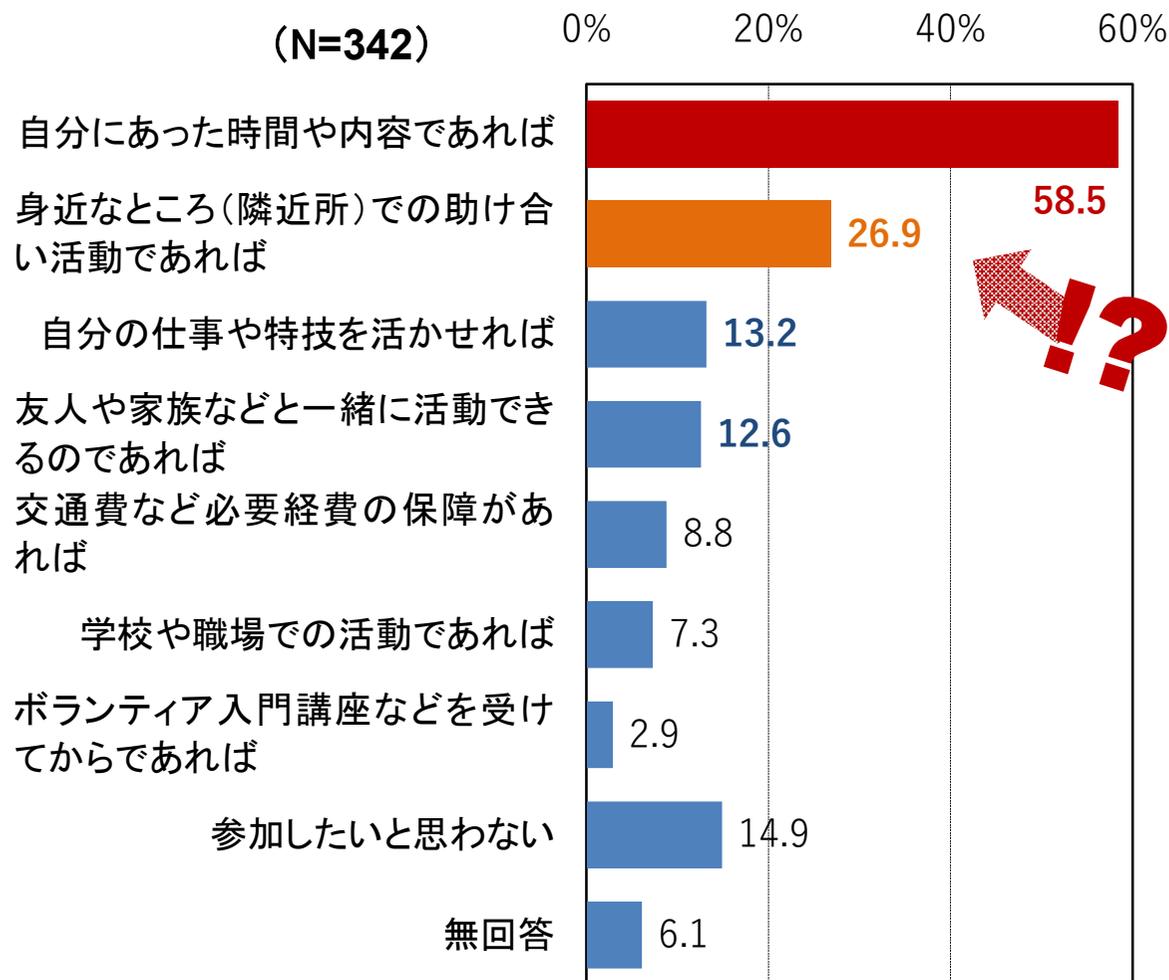
	すでに参加している	興味があるが、参加していない	関心がない	その他	無回答
全体 (n=450)	19.3	42.2	21.6	12.9	5.1
社協の業務内容を知っている (n=143)	33.6	41.3	9.1	13.3	4.9
社協だよりを読んだことがある (n=282)	23.0	43.3	14.5	14.9	5.7
社協の名前を聞いたことがある (n=272)	17.6	46.3	18.8	14.3	4.4
社協facebookを見たことがある (n=10)	20.0	60.0	-	10.0	10.0
社協の事務所の場所を知っている (n=226)	24.3	42.0	12.8	16.8	5.3
まったく知らない (n=44)	2.3	38.6	47.7	6.8	4.5



【問18で「2」から「4」までのいずれかを選択した方に伺います】 ※「up」「down」は前回調査比

問19 あなたは、どのような条件を整えばボランティア活動に参加してみたいと思いますか。

〈該当する項目すべてに○〉



前回調査と比べ、選択数の高い選択肢の降順は同じ。
 前回調査と比べ、「自分にあった時間や内容であれば」が約10ポイント減少し、「身近なところでの助け合い活動であれば」と「自分の仕事や特技を活かせれば」が約10ポイント以上上昇している。



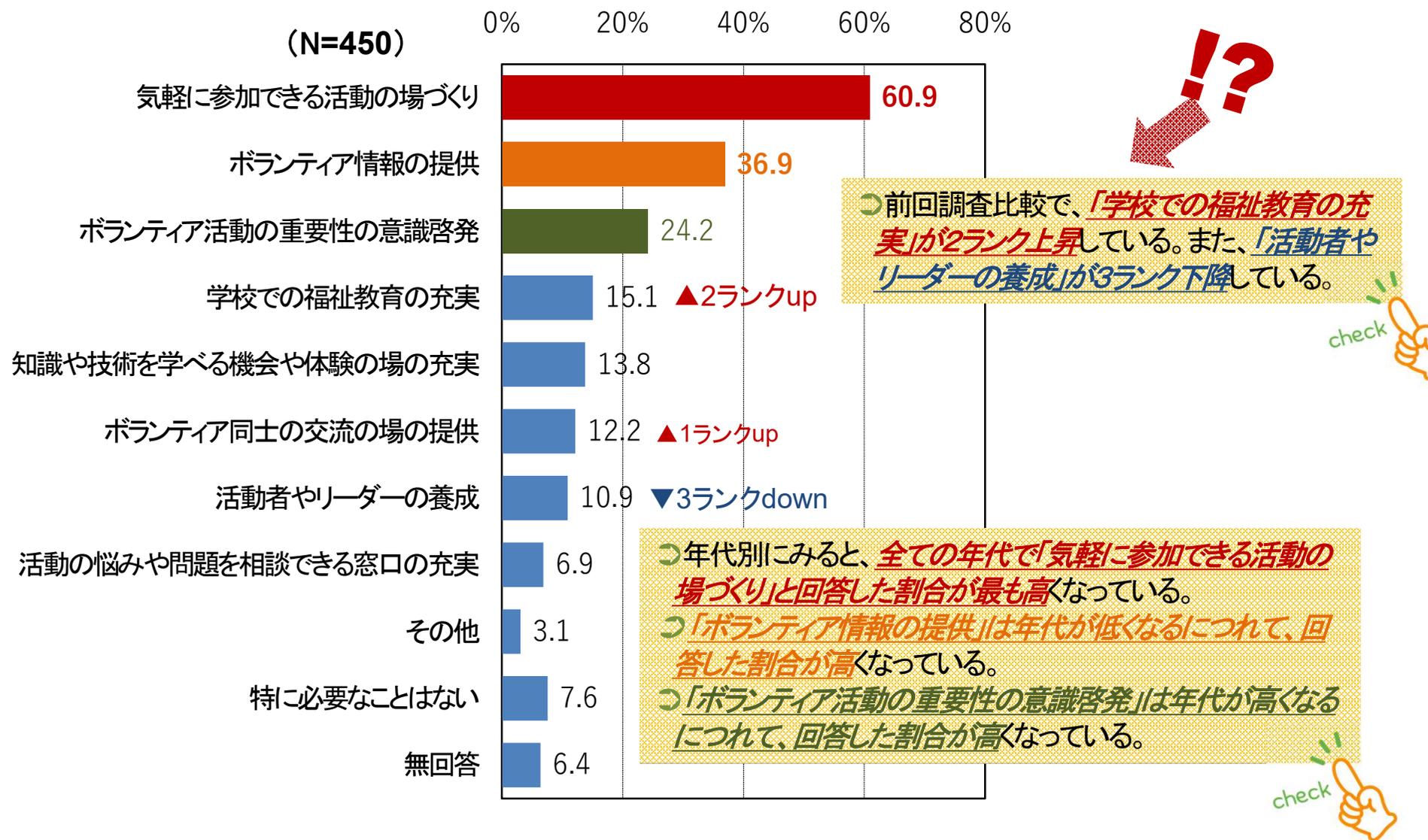
60歳代までは、「自分にあった時間や内容」がボランティア活動をする前提となっている。
 加えて、40歳代は、「自分の仕事や特技を活かせれば」、50歳代以上は、「身近なところでの助け合い活動であれば」がボランティア活動をする前提となっている。
 80歳代以上の方は、約4割が「参加したいと思わない」を選択しており、心身面の負担がうかがえる。



問20 あなたは、今後ボランティア活動を盛んにするために、特に必要だと思うことは何ですか。

〈該当する項目すべてに○〉

※「up」「down」は前回調査比



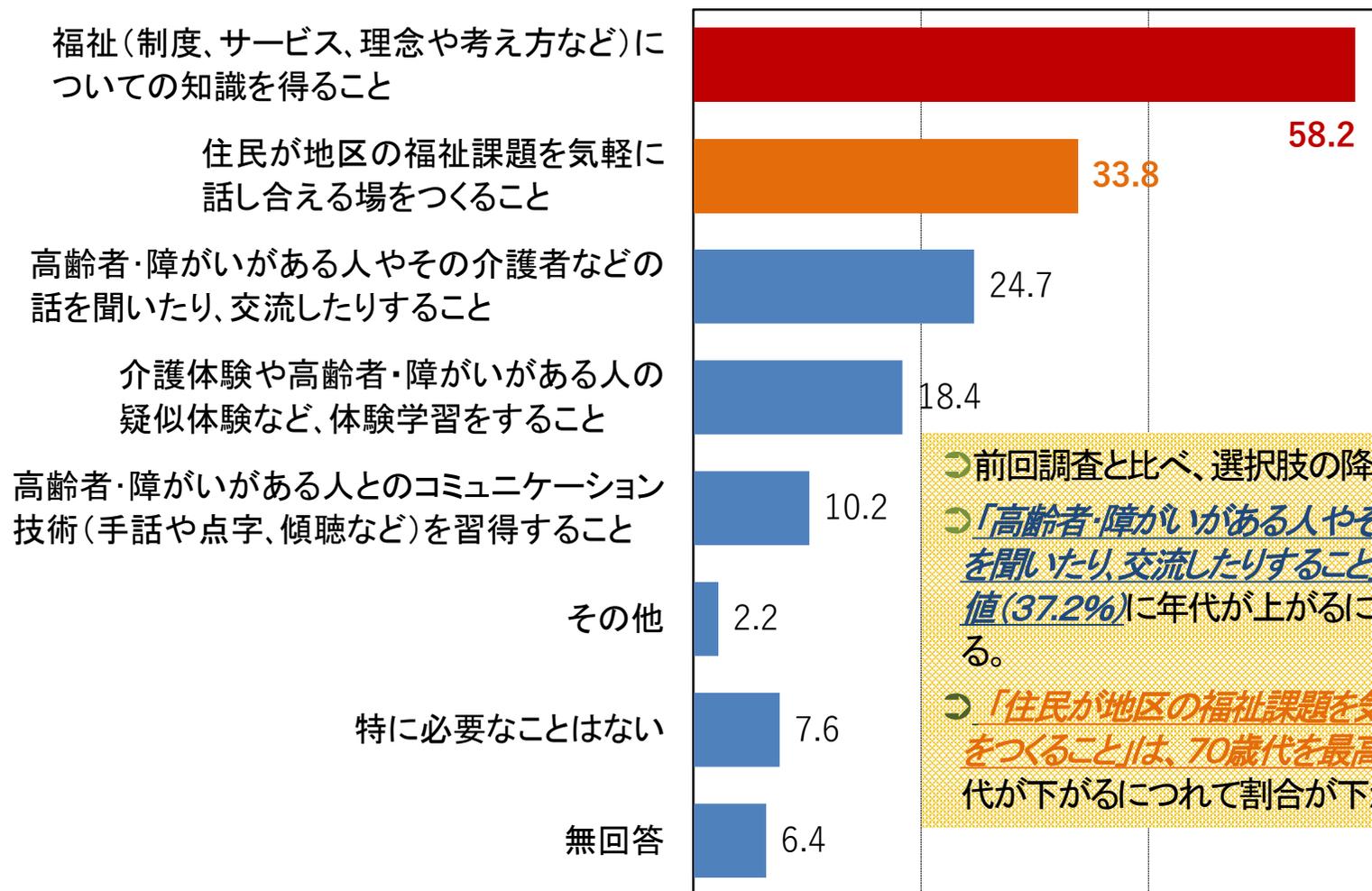
問21 あなたは、「福祉」について理解を深めるためには、どんなことが必要だと思いますか。

＜あなたの考えに近い項目すべてに○＞

※「up」「down」は前回調査比

(N=450)

0% 20% 40% 60%

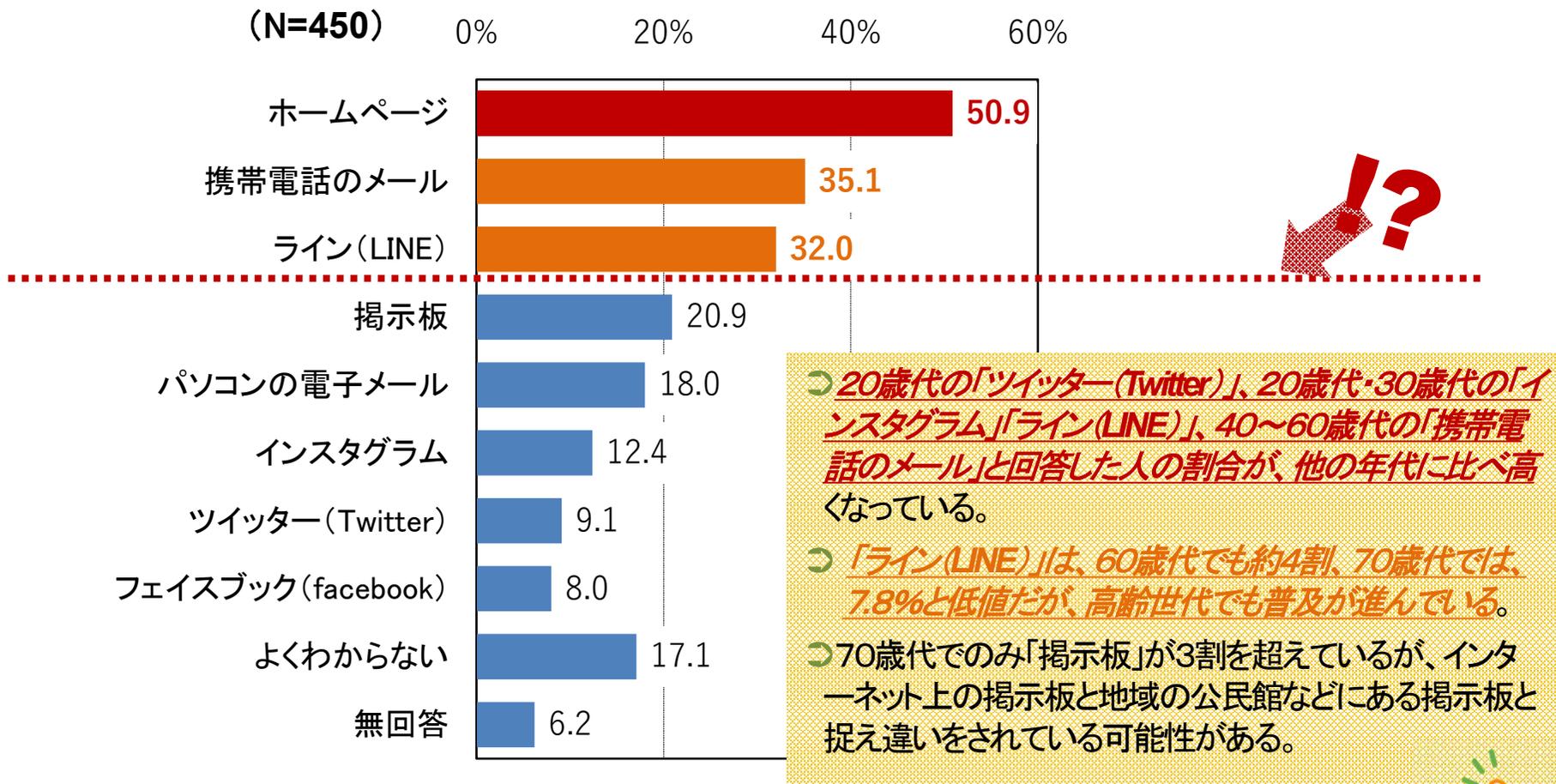


○前回調査と比べ、選択肢の降順は同じ。
 ○「高齢者・障がいがある人やその介護者などの話を聞いたり、交流したりすること」は、30歳代を最高値(37.2%)に年代が上がるにつれて割合が下がる。
 ○「住民が地区の福祉課題を気軽に話し合える場をつくること」は、70歳代を最高値(45.6%)に年代が下がるにつれて割合が下がる。



(n=450)

問22 あなたは、「福祉」情報を得るために、どのようなネットワークサービス（情報媒体）が活用できますか。〈該当する項目すべてに○〉



☒問 23～30

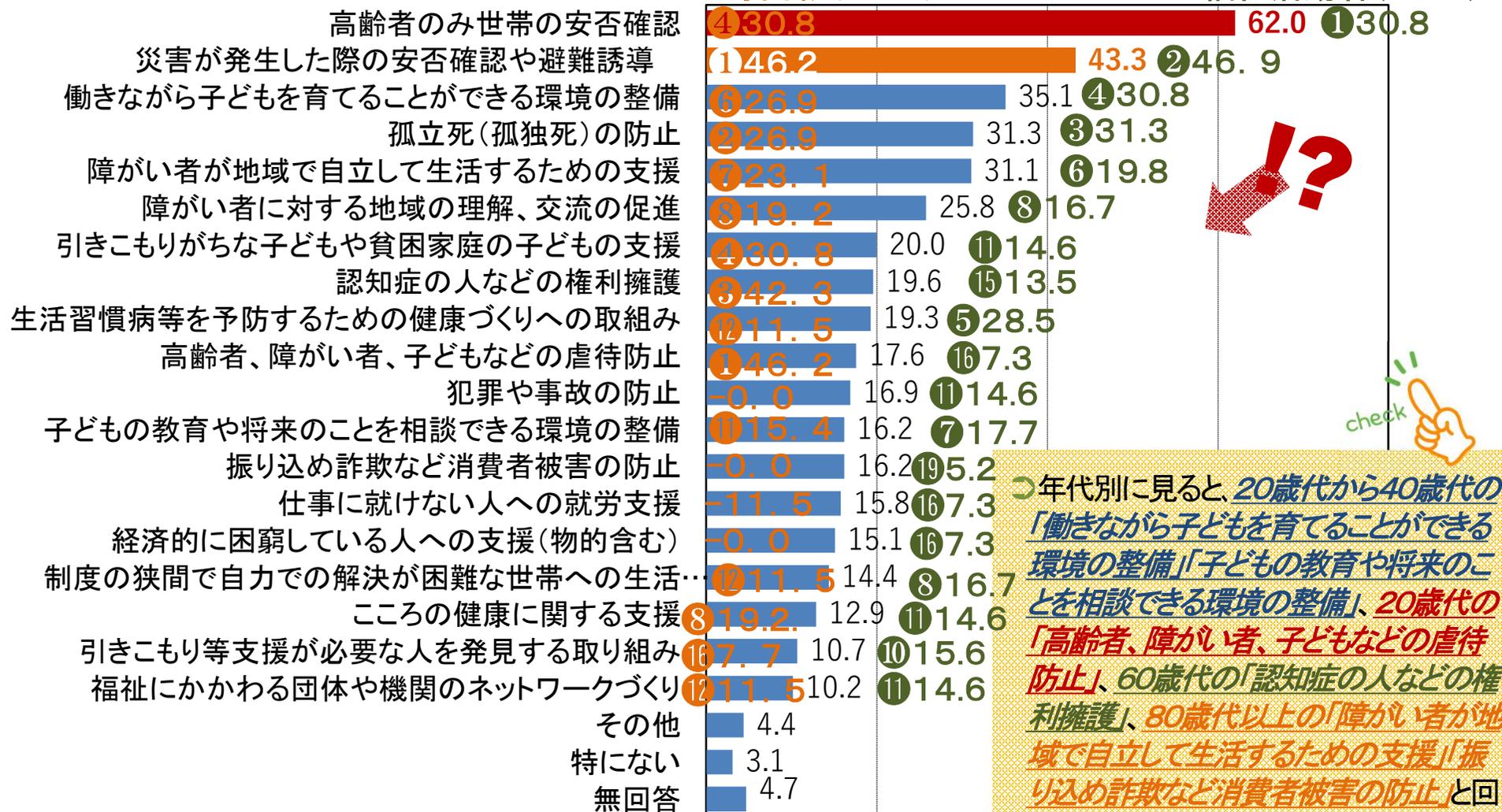
早島町全体の福祉や社会福祉協議会、 「ほっとプラン」について

- ☒福祉意識や社会福祉協議会活動の認知度や捉え方から、今後の事業活動の方向性を検証する。

問23 地域の福祉を充実するために、早島町全体で優先的に解決しなければならない課題は何だと思いますか。〈該当する項目すべてに○〉

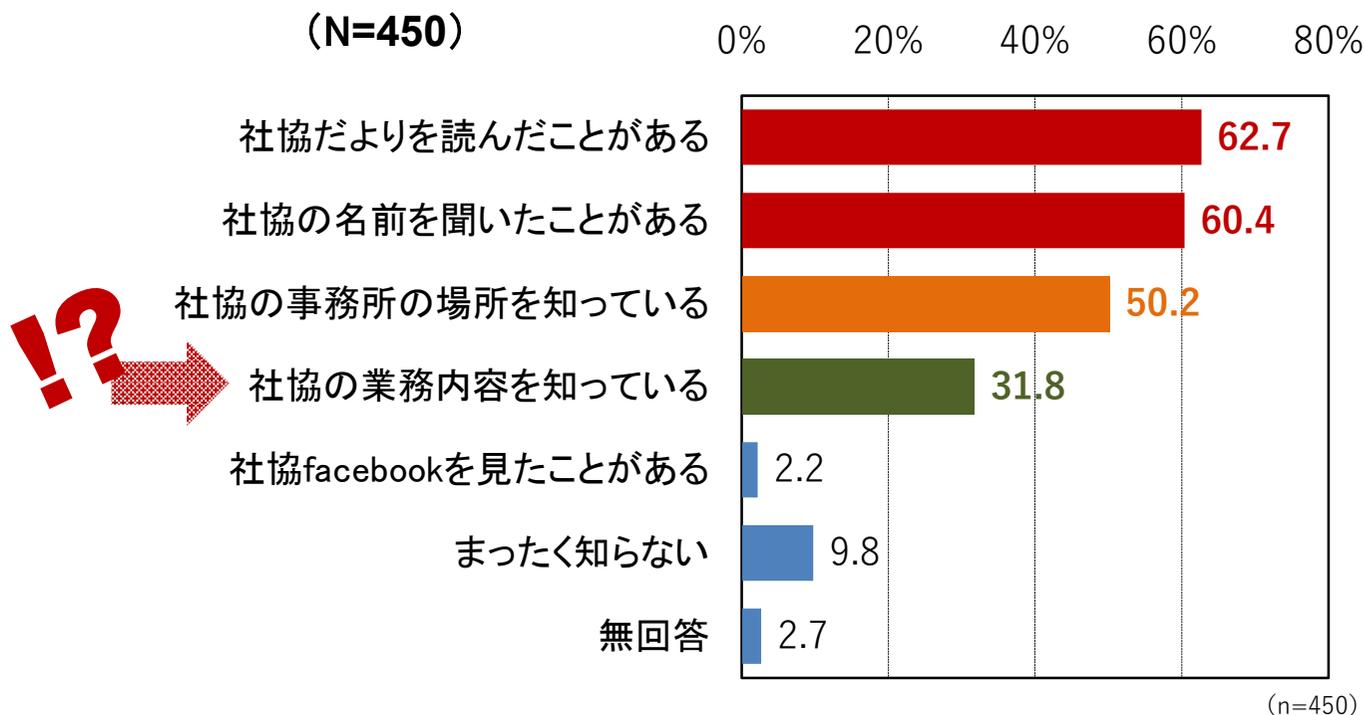
(N=450)

0% 20% 40% 60% 80%
 専門職(N=26) 福祉活動者(N=96)



年代別に見ると、20歳代から40歳代の「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」「子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備」、20歳代の「高齢者、障がい者、子どもなどの虐待防止」、60歳代の「認知症の人などの権利擁護」、80歳代以上の「障がい者が地域で自立して生活するための支援」「振り込め詐欺など消費者被害の防止」と回答した人の割合が高くなっています。

問24 あなたは、早島町社会福祉協議会（社協）をご存知ですか。〈該当する項目すべてに○〉



▷年代別に見ると、20歳代は社会福祉協議会を「まったく知らない」割合(46.4%)が最も高く、「名前を聞いたことがある」が35.7%で続く。また、60歳代と70歳代の約半数が「業務内容を知っている」。

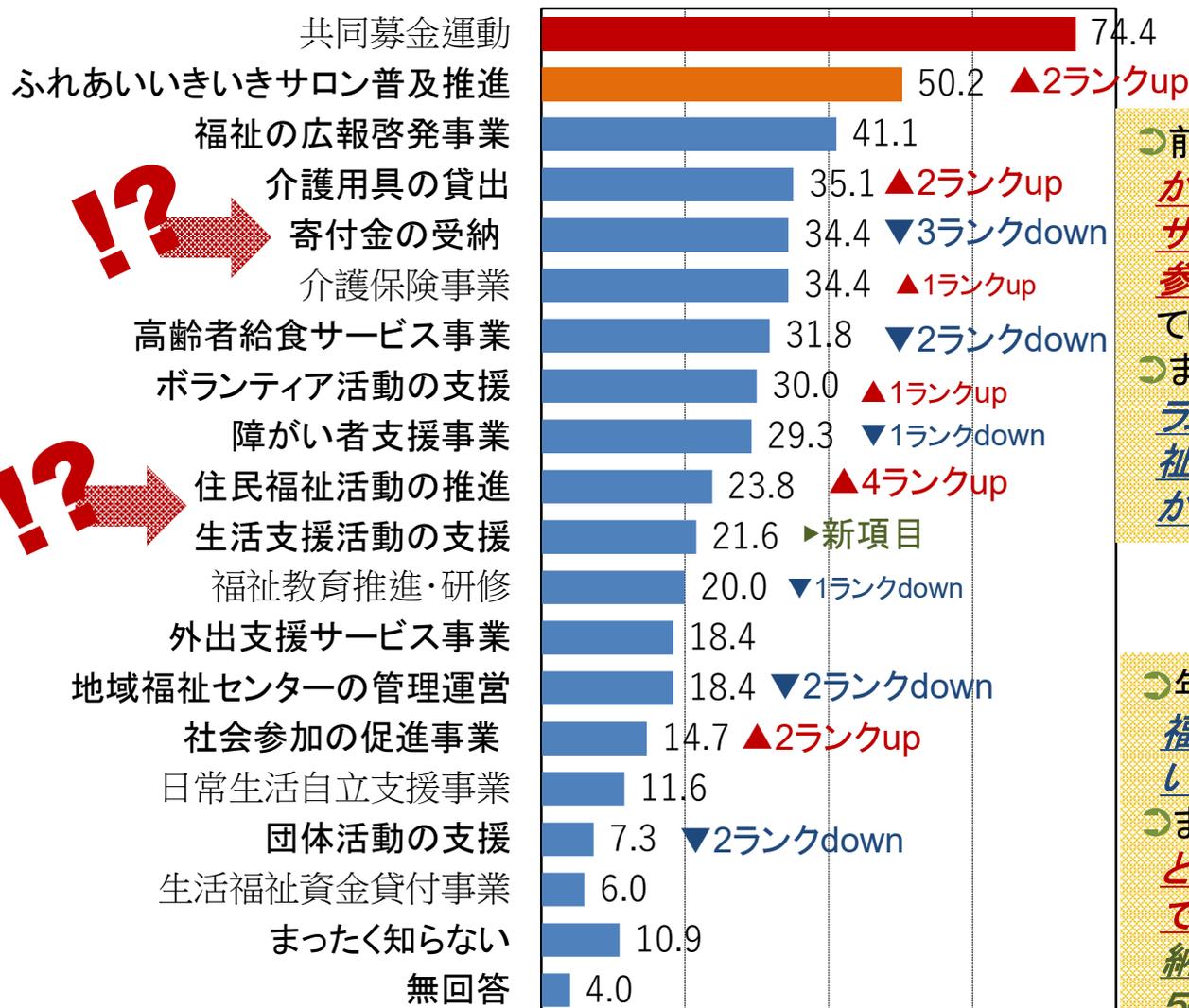
▷全世代において、「社協だよりを読んだことがある」が「事務所の場所を知っている」人の割合が少ない。



問25 早島町社会福祉協議会では、様々な福祉事業種別を行っています。あなたが知っている事業活動は次のうちどれですか。〈該当する項目すべてに○〉 ※「up」「down」は前回調査比

(N=450)

0% 20% 40% 60% 80%



○前回調査比較で、「住民福祉活動の推進」が4ランク上昇した他、「ふれあいいきいきサロン普及推進」「介護用具の貸出」「社会参加の促進事業」がそれぞれ2ランク上昇している。

○また、回調査比較で、「寄付金の受納」が3ランク、「高齢者給食サービス事業」「地域福祉センターの運営管理」「団体活動の支援」が2ランク下降している。

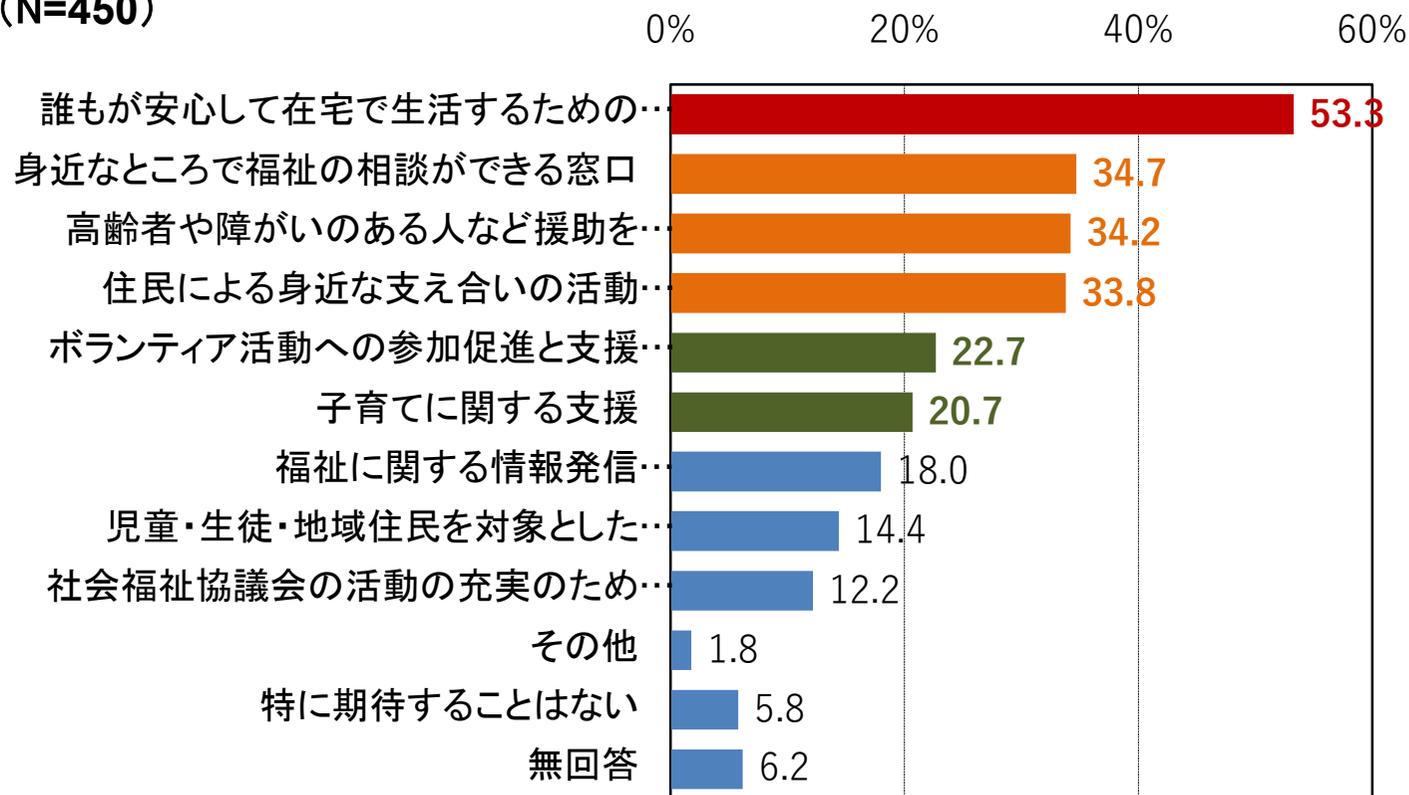


○年代別で見ると、20歳代の半数が、社会福祉協議会の「事業内容をまったく知らない」。

○また、「住民福祉活動の推進」は、60歳代と70歳代で3割以上、40歳代と80歳以上で約2割が知っている。さらに「寄付金の受納」は、60歳代から70歳代は約半数が、50歳代と80歳以上では3割以上が知っているが、それ以外の若年層は1割台である。

問26 住民主体の「地域福祉」に取り組むことがますます大切になっていますが、あなたは早島町社会福祉協議会に対してどのような役割を期待しますか。〈該当する項目すべてに○〉

(N=450)



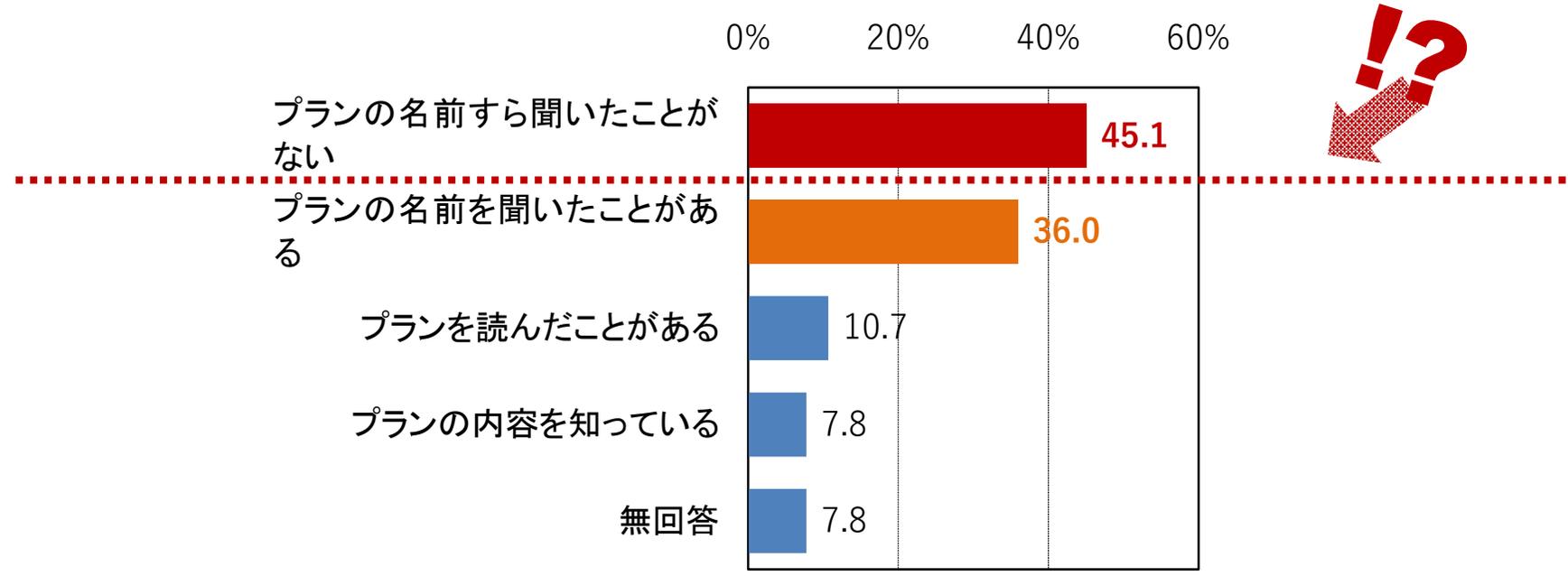
○年代別にみると、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」を除くと、**30歳代では、「子育てに関する支援」が半数以上の割合(53.5%)が、60歳代では「身近なところで福祉の相談ができる窓口」(46.0%)と「住民による身近な支え合いの活動(地区の福祉活動)への支援(44.8%)」の割合が高くなっている。**

○また、「**特に期待することがない**」は**20歳代で17.9%**、「児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の推進」が30歳代で34.9%、「社会福祉協議会の活動の充実のためスタッフ体制を充実すべき」が80歳代以上で23.8%と、その項目で最高値となっている。



問27 あなたは、住民や福祉関係者による福祉行動計画(平成27年度から5か年間)である『はやしまほっとプラン(早島町地域福祉活動計画)』をご存知ですか。〈該当する項目すべてに○〉

(N=450)



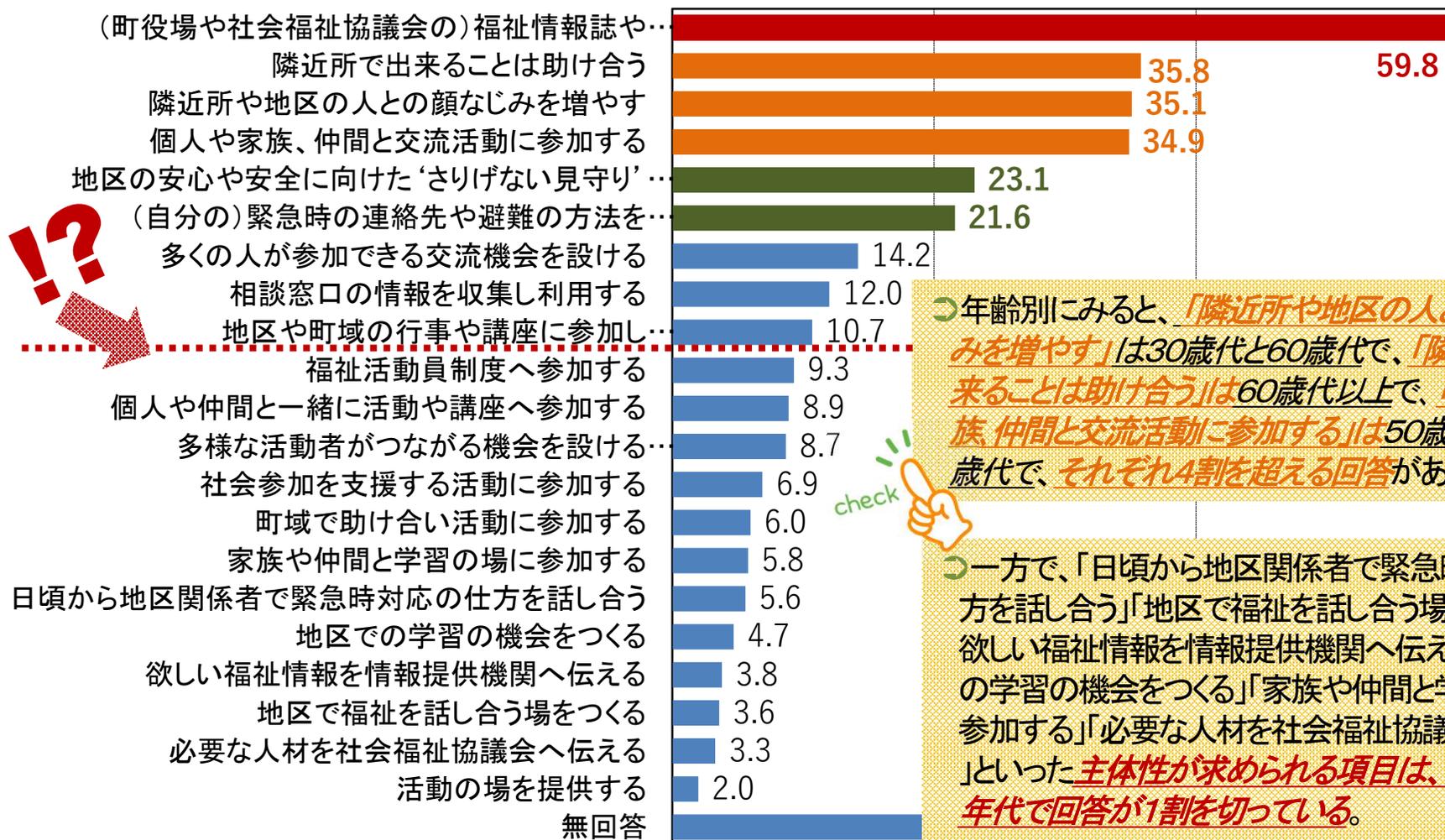
◎年齢別にみると、「プランの名前すら聞いたことがない」について、**20歳代で67.9%、30歳代で76.7%と、その世代の大半がプランの存在を知らない。**
 ◎また、「プランを読んだことがある」について、**回答率が高いのが、50歳代と60歳代の17%**となっている。



問28 『はやしまほとプラン』では「住民の方や地域（地区や団体）で進めること」として、個人でも取り組める目標を明示しています。あなたやご家族、地区等での取り組み状況を教えてください。 <心掛けている項目や取り組まれている項目すべてに○>

(N=450)

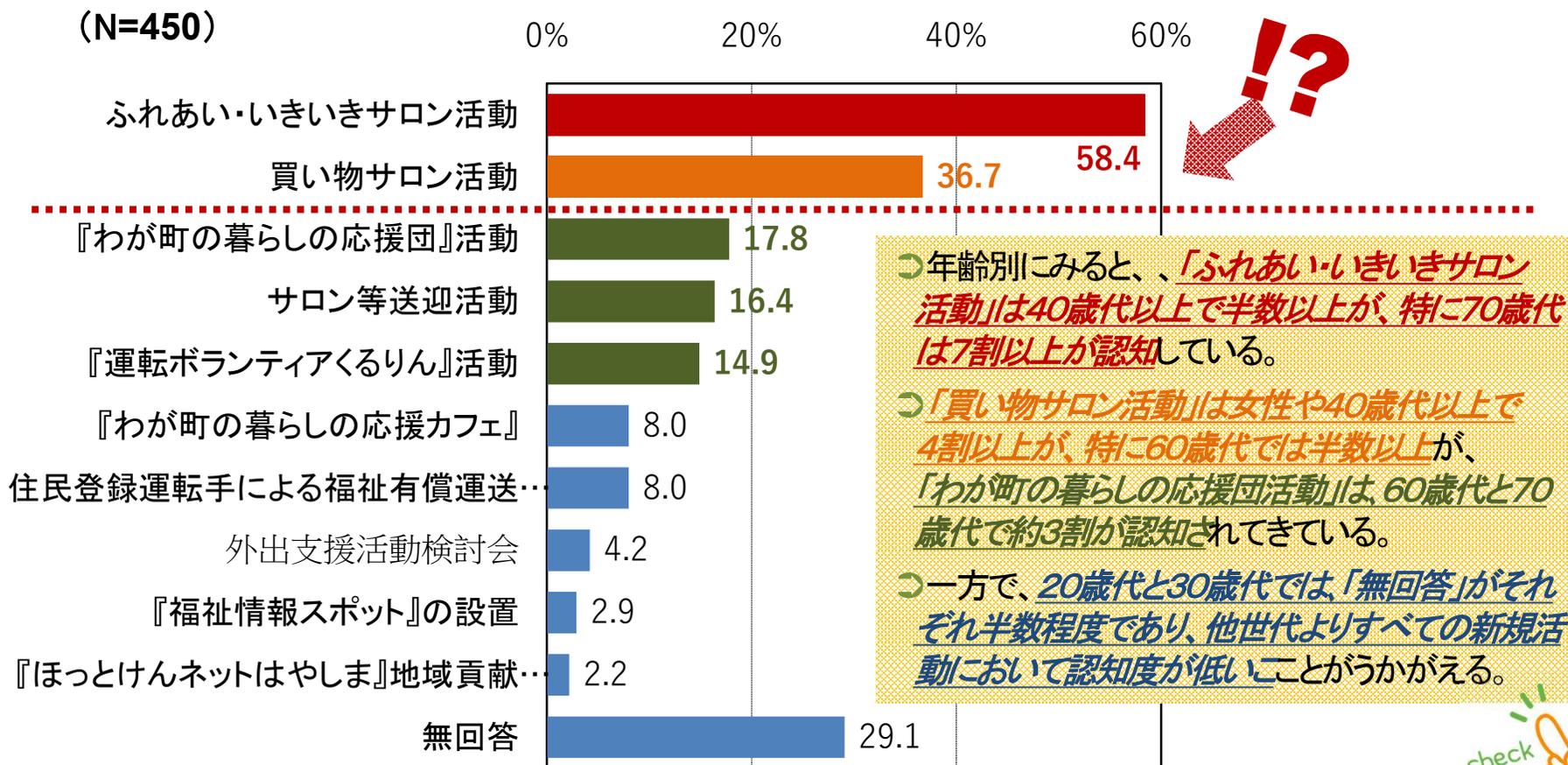
0% 20% 40% 60%



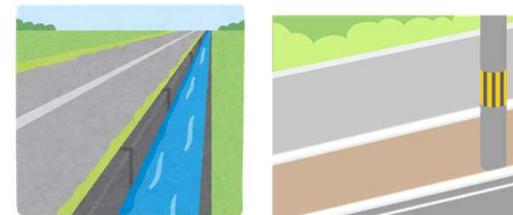
○年齢別にみると、「隣近所や地区の人との顔なじみを増やす」は30歳代と60歳代で、「隣近所で出来ることは助け合う」は60歳代以上で、「個人や家族、仲間と交流活動に参加する」は50歳代から70歳代で、それぞれ4割を超える回答がある。

○一方で、「日頃から地区関係者で緊急時対応の仕方を話し合う」「地区で福祉を話し合う場をつくる」「欲しい福祉情報を情報提供機関へ伝える」「地区での学習の機会をつくる」「家族や仲間と学習の場に参加する」「必要な人材を社会福祉協議会へ伝える」といった主体性が求められる項目は、すべての年代で回答が1割を切っている。

問29 『はやしまほっとプラン』が策定されて以降、新たな住民や団体協働の福祉活動が行われています。あなたが知っている活動は次のうちどれですか。〈該当する項目すべてに○〉



問30 その他、早島町の福祉活動や社会福祉協議会へのご意見やご要望、ご自身や地区の困りごとなどがありましたら、自由にご記入ください。



①公共交通や道路等の環境面や安全面への意見や要望

☒ 歩行者の安全のために、歩道確保、歩道整備して欲しい。用水路の整備も進めて欲しい。安全な町づくりがもっと必要。

(40歳代男性)

☒ 早く早島駅の階段をエスカレーターかエレベーターにして欲しい。(50歳代女性)

☒ 町の防犯強化してほしい。最近是不審者や殺人事件も多いので、防犯カメラ無さ過ぎるので、町の人を守るため、事故の多い所、水門の所、通学路に付けて欲しい。

(40歳代女性)

☒ 町外からの自動車の通り抜けの増加⇒信号機を増やしてほしい。(60歳代女性)

☒ 若宮団地から国道2号線へ出たい時、(無津交差点が)朝7~9時頃までが混雑していて困る。右折もできない。(40歳代男性)

☒ 長津の太田時計店の所の信号、横断歩道が青でも車が止まってくれなく、子供が朝学校へ行くのに毎日困っています。結局赤になって渡るしかありません。(50歳代男性)

☒ 深砂公園東側の、サンゲツと畑？の所の雑草が伸び放題で、視界も悪くなり車体にもあたるので、とても迷惑しています。

(40歳代女性)

☒ 犬猫(ペット)の糞放置と、たばこの吸い殻の投げ捨てなど。人として最低限のマナーが守られていないのが現状。(60歳代男性)

②福祉施設や住宅、その他の生活環境面等への意見や要望

☒ 早島町内でデイケアから老人ホームまでの一連の福祉施設を早急に整えていただきたい。(60歳代女性)

☒ 早島町営住宅入居には、国民年金でお金に困っている方、母子家庭、父子家庭でも大変な人、年寄り、ひとり親家庭、障がい者(家族がしっかりしていたらNG)を優先して欲しい。(30歳代女性)

☒ 保育園の待機児童問題の解消。
(30歳代女性)

☒ 台風の時、夜がとても不安。その時、町の指定でなく、地区の公民館を使用させて頂けると助かります。(80歳代女性)

☒ 金田地区に郵便ポストがない。困っている方も必ずいると思う。早急に設置対応をお願いします。(40歳代男性)

☒ 若宮・矢尾側に、スーパーマーケットの誘致希望。(80歳代女性)

☒ コミュニティバスの便数をもう少し増やしてほしい。(80歳代女性)

☒ 中庄、川大、マルナカあたりまでの交通手段がほしい。(80歳代女性)



③福祉施策への意見や要望

☒ 目下のコロナ禍の正確な状況把握と対策を、重点的に取り組んで頂きたい。

(60歳代女性)

☒ 岡山市や総社市では、パートナーシップ制度が導入されているが、町内でそのような話があがる事も無い。(40歳代女性)

☒ 町には 自主防災組織連合会がありますが 社協もオブザーバーと参加すること、また ボランティアセンターの設置訓練も、社協関係者で町内で実施することを望みます。

(60歳代男性)

☒ 高齢者だけに重点を置きがちにならず、子育て世帯にももっと力を入れた方が、良い町づくりが出来ると思う。(60歳代男性)



☒ 他の市町村に比べ、福祉が薄いと感じました。以前家族が障がい者になった時、「早島ではその制度はないんです。」と言われた事が多々あり、情けない思いをした事があります。今は改善されているのかもしれませんが(70歳代女性)

☒ 幼少期からの奉仕活動や様々な体験活動を、学校教育(小・中・高・大学)の授業の中に組み込むことで、自らが社会の一員であることを実感し、思いやりのある社会性をもった人間の成長へとつながっていくのではと考えます。(自己中心的な考え方を持つ人が少なくなるのではないかと考えます。) 授業は、教職員だけではなく、企業・民間人も積極的に指導者として協力してもらう。時には 子供達の親にも参加してもらうことで、(子供達を含めた)若い世代の自発的、自立的な行動や活動を行う原動力になることが期待できると思います。(50歳代女性)

④自治会活動や福祉活動への意見や要望

☒ 自治会から退会する高齢世帯が増えてきている。元気なうちは何も問題はないが、老いた時、地域・隣近所の人とうまく対応出来るのか、今から問題です。(60歳代男性)

☒ 町内会が 若い人が少なく、なかなか昔の様に活動する事が難しくなっている。
(70歳代男性)

☒ 一定規模の団地やコミュニティが構成されるエリアが出来る場合、地元自治会に任せることなく、行政(協議会等)が積極的に新しい住民に対し、指導・教育すべきだと考えます。



☒ いきいきサロン、暮らしの応援カフェ、暮らしの応援団、ほっとけんネット・・・活動名称を聞いて、何を支援するのか不明。愛称名から、何を支援するのか理解できるのが望ましい。(70歳代男性)

☒ 例えば、新生児や幼児がいる家庭にとって、ゴミ出し、買い物など大変なことはたくさんあります。すぐそこへゴミ出しに行くだけでも、家に子どもを置いていけず、困っている家庭がたくさんあります。「わが町の暮らしの応援団」とても素晴らしい活動だと思おうので、子育て世帯も助けてほしいです。



⑤ 町民や地域の雰囲気への意見

☒ 町外からの転入で、当時酷い扱いを受けた為、関心がわからない。町内行事はできるだけ参加したくない。 (20歳代男性)

☒ 福祉活動に参加されている方が、地区内で偉い態度、言動をとっており、人材の育成に力を入れた方が良いと思う。 暇な高齢者の集まりだけでは、何かとトラブルになると思う。(40歳代女性)

☒ 挨拶しても返してくれない年配の方もいるので、少し閉鎖的な町だなと感じる。 (30歳代女性)



☒ 先般、コロナウィルスに早島町民の方が感染したときに、地域住民からの誹謗中傷がかなりひどかったことをニュース等で知りました。そのことで余計に、早島町はとても閉鎖的な町だと実感し、ますます地域住民に個人情報を知らせたくないと思うようになりました。長年早島町に居住していますが、「ただ住所が早島町にあるだけ」の感覚。今のところは地域の方を信用できないので、お世話になる予定はありません。(20歳代女性)



⑥福祉活動に関するアンケート調査への感想や意見

☒今現在、自分に関係がない事や、興味がない事ばかりで、アンケートに答えましたが、よくわからない事が多かった。自分に関係する事が増えてくると、もう少し色々な事にも関わって(行事参加等)くるのかなと思います。いろんな活動が有る事を知りました。でもこれからはもう少し関心をもっていきたいと思いました。(40歳代女性)

☒せっかくアンケート調査対象に選んで頂いたのですが、今まであまり福祉について考えていなかったので、良い返事ができていません。これを機会に、年老いていく自分の先を考えてみたいと思いました。(60歳代女性)



☒「わが町の暮らしの応援団」のリーフレットを見て、とてもありがたい取組だなあと感じました。将来、必要になったらお願いしたいです。また、退職したらお手伝いできることもあるのかなと思います。助け合いの町、早島にて安心して暮らせたらと思います。(40歳代女性)

☒仕事の関係で、なかなか参加できなくて申し訳なく思っています。自分が参加していないので、なかなか理解ができていません。仕事辞めたら参加したいと思います。活動していただいている方には、感謝しかないです。(60歳代女性)



⑦福祉活動に関するアンケート調査への感想や意見

☒ アンケートを頂いたことで社会福祉協議会について、少しわかったこと(気づいたこと)がありました。普段何気なく見ていることが、福祉活動の一環であり、協議会が担っていたものだと感じました。ただ、役場と福祉協議会の区別がつかないことがまだまだあります。また、福祉活動の対象者が個々の活動によって違うのか、全町民が対象なのか把握できていないことにも気づきました。広範囲にわたり活動して頂き、ありがとうございます。今後も宜しくお願いします。
(30歳代女性)



社会福祉協議会とは？

☒ アンケート調査、用紙をシンプルにして下さい。(40歳代男性)

☒ 細かな内容が多く、重なるような項目もあり、答える側にとっては苦痛。これを集計して本当に活かされるのだろうか疑問に思う。もっとシンプルな内容にして欲しかった。
(60歳代男性)



⑧ 高齢当事者の声

☒ 社協の方には大変お世話になっています。近くではあるし、皆さん親切丁寧で、感謝しています。老人の1人暮らしは何事起きるか分からない事が多々あります。自分が迷惑をかけないように、注意して生活しています。(80歳代女性)

☒ 1人になって考えると、すべて自分自身がささえ。明るく生きるも暗く生きるも自分次第。がんばって命あるかぎり生きていきます。(80歳代女性)

☒ 年金生活の老後が不安。免許返納時からの行動(買物等)が不安。(80歳代男性)

☒ 施設に入りたい。(70歳代女性)

☒ 私自身、現在不自由を感じた事はありませんが、今後自由がきかない時は、社会福祉活動が特に必要となります。今後、社会福祉について勉強していきたいと思います。(70歳代男性)

☒ 現在は元気で参加されている方、元気で無関心な方さまざまです。高齢化社会に向けて、皆の意識を高めつつ、楽しめることはないでしょうか。(70歳代女性)

☒ 今のところ困り事はなく生活していますが、先に自分が身体不自由になった時、相談するようになると思います。その時はよろしくお願いします。(80歳代男性)

